大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム 評価

2021 年度 報告書

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2021 年度 報告書 目次

111.		_
	口日	\equiv
777	カビ	

1. 2.	1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・ 1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー(学修成果の把握に関する方針) 2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け 3. 看護学教育カリキュラムの評価方法	• • • • • 1
	2章 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・	• • • • • 5
	1. 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価結果	
2.	2. 本学部の強みおよび課題	
第 3	3章 次年度に向けた課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· · · · · 9
	1. 昨年度より引き続き取り組む課題	
2.	2. 今年度の新たな課題	
資料	料	
1.	1. 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・	• • • • 10
2.	2. 2021 年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・	• • • • 12
3.	3. 2021 年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラ	ム評価・13
	根拠資料一覧 大項目 1. ディプロマポリシー	
	大項目 2. 環境	
	大項目 3. 過程	
	大項目 4. 成果	
	大項目 5. アドミッションポリシー	
	大項目 6. 改善	
4.	4. 2021 年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラ	ム評価・27
	委員評価一覧 大項目 1. ディプロマポリシー	
	大項目 2. 環境	
	大項目 3. 過程	
	大項目 4. 成果	
	大項目 5. アドミッションポリシー	
	大項目 6. 改善	

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2021 年度 報告書 巻頭言

カリキュラム評価委員会は、3年目を迎えました。メンバーは、内部委員として看護学部教員3名、学務部2名、外部委員として医学部教員1名、他大学看護系教員1名、自治体に所属する専門家1名、学生委員として学年が異なる2名の学生に委員を委嘱しています。看護学部教員2名、学務部1名、学生委員2名の交代がありました。複数年度で評価することによって、継続した評価ができるため、評価基準は昨年度同様としました。

2020年1月から世界に感染拡大した新型コロナウイルス (COVID-19) は、パンデミックとなり、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらす影響は、個人個人の感染のリスクの問題から、医療問題や経済問題に発展しました. 感染予防のため、3 密(換気の悪い密室空間、多数が集まる密集場所、間近で話をする密接場面)を避けるための生活行動が求められました. 日本でも緊急事態宣言が出されたことにより大学の講義は、オンライン講義となりました. そのような非常事態の混乱の中で、新入生を迎え、IT 化の環境整備や時間割の変更、在校生の講義や演習、実習等が最大限できる環境となるように教職員と学生が協力しあって過ごした1年であったように思います. この状況を踏まえ、外部委員・学生委員の意見を受けて、今年度は COVID-19 の影響による実習の工夫(学外・学内実習も含む)や学習環境の調整について評価項目や根拠資料を追加しました. COVID-19 の影響による学習環境の調整について評価項目や根拠資料を追加しました. COVID-19 の影響による学習環境の調整については、大項目 2「環境」の中項目②「ICT の設備が整っている」の小項目として「遠隔授業ができる環境が整っている」を追加しました. COVID-19 の影響による実習の工夫(学外・学内実習を含む)については、大項目 3「過程」の中項目①「カリキュラムは計画通り実施されている」に追加しました。また、大項目にアドミッションポリシーの項目を取り入れ、看護学部が求める人材を明確に示しました.

カリキュラム評価委員会は、COVID-19の影響に伴い、ZOOMにて開催となりました.評価委員会の前に、外部委員と学生委員から評価項目別にコメントをいただいており、内部委員がそれぞれのコメントに対して回答していく形で進めました。それぞれの委員が直接学生委員に意見を聴収するなど活発な意見交換ができました.評価項目等多角的に意見がでたと考えています.

2021 年度大阪医科大学は、大阪薬科大学と統合し大阪医科薬科大学になりました. 看護学部、医学部、薬学部と統合された医療系総合大学として、特徴あるカリキュラムの企画、運営、評価がされていくと思われます. 来年度は、外部委員の中に薬学部の先生にも入っていただき、さらに研鑽をしていきたいと考えております.

2022年3月

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会

第1章

第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー(学修成果の把握に関する方針)

本学の理念は、建学の精神及び学是(至誠仁術)に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人の育成である(学則第1条)。また、本学の目的は、前述した理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた、1)人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、2)変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、3)地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成することである(学則第2条)。

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価している。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行っている。本学では、アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント(大学がその教育目的を達成するために行う管理運営)」を確立させ、不断の教育改善に取り組んでいるところである。

以下に、機関レベル(大学レベル)および看護学部看護学科のアセスメントポリシーを示す.

表 1. 大阪医科薬科大学 機関レベル (大学レベル) のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	・アドミッションポリシ	・カリキュラムポリシ	・ディプロマポリシー (以
	ーを満たす人材か	ーに則った学修が進め	下, DP) を満たす人材にな
	・アドミッションポリシ	られているか	ったか
	一の妥当性	・カリキュラムポリシ	・DPの妥当性
		一の妥当性	・カリキュラムポリシー
		・アドミッションポリ	の妥当性
		シーの妥当性	・アドミッションポリシ
			ーの妥当性
機関レベル	・入学試験	・進級率, 休学率, 退学	[卒業時]
(大学レベ	・入学時調査	率	卒業時アンケート(学勢調
ル)	・入試制度評価	・学勢調査	査)
		・正課外活動状況(短	国家試験合格率(医・保・
		期留学, クラブ, ボラン	助・看)
		ティア等)	研修先一覧(マッチング結
		・ポートフォリオ	果:医学部)
			就職率/進学率(看護学部
			[卒業後]
			卒業生アンケート
			卒業生就職先/勤務先へ
			のアンケート

表 2. 大阪医科薬科大学 看護学部看護学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル	・入学試験	・修得単位数	·卒業要件:修得単位数,
(学部レベ	• 入学時調査	• GPA	卒業演習評価
<i>ル</i>)	· 入試制度評価	・学勢調査(カリキュラ	· 資格取得: 国家試験合
		ム評価・学修行動・DP到	格率
		達度調査)	• GPA
		教員によるカリキュラ	・休学率,退学率
		ム評価	•就職率,進学率
		• 進級率, 休学率, 退学	・学勢調査(カリキュラ
		率	ム評価・学修行動・DP到
		・保健師、助産師コース	達度調査)
		希望者数	・卒業時到達目標の自己
		• 外部試験結果(国家試	評価
		験模試等)	・正課外活動ポートフォ
		・正課外活動ポートフォ	リオ
		リオ	·入試制度別成績,態度
		•入試制度別成績,態度	
科目レベル		・各科目評価(講義・演	・各科目成績(講義・演
		習・実習)	習・実習)
		実習ポートフォリオ	
		・授業評価 (学生)	
		·授業改善報告書(教員)	
		・ピアレビュー報告書	
		(授業見学)	

https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/assessment_policy.html

2021年4月1日現在

2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組(内部質保証)のひとつとして 2019 年 4 月 1 日に設置された.

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員 に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護 学部教育水準の更なる向上を目指すものである.

本委員会は、「課程レベル(学部レベル)の PDCA サイクルをモニタリングする」という位置付けにある. PDCA サイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計する Plan (企画・立案)、計画の実施とその効果を測定する Do (実施)、結果を分析し評価する Check (評価)、プロセスの継続改善に必要な措置を行う Action (検証・改善)の 4 段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである. 4 段階のステップとスパイラルを

積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる.

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

本委員会の運営要領は資料1,2021年度委員名簿は資料2に示す.

3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

1) 評価項目と評価基準

本学看護学部看護学科のアセスメントポリシーおよび本委員会の目的・位置付けに基づき、評価項目が設定された.評価項目は、大・中・小項目で構成され、大項目は①本学看護学部ディプロマポリシー(学位授与の方針)、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤アドミッションポリシー、⑥改善である.中項目は、大項目について2~5の項目、小項目は中項目をどのような点で評価するかを示す項目である.評価するための根拠となる資料をそれぞれ明示した.なお、評価項目で用いる「カリキュラム」とは、各科目および科目全体を指す.

評価基準は、A: 十分に実施されている (解釈: PDCA がなされている)、B: 概ね実施されている (解釈: 一部実施にむけた検討がなされている)、C: 大幅な見直し、改善が必要 (解釈: PDCA がなされていない) である.

評価項目および評価基準は、本学看護学部教授会ならびに本委員会で協議し、決定された.表 3に示す.

2) 評価の方法

評価は、前年度に実施された本学看護学部看護学科の教育と教育をめぐる環境に関して、根拠資料(資料 $3-1\sim3-6$) ごとに示された「P」・「D」・「C」・「A」の内容から、評価基準に沿って評価し、コメントがある場合には記載がなされた。さらに、中項目ごとに総合評価が行われた。

学外委員(第 $2\sim4$ 号委員)および学生委員(第6 号委員)は各々、評価し、学内委員(第1 号および第5 号委員)は意見を集約し、評価を行った。

各委員による評価は、資料 $4-1\sim4-6$ のとおりである。この資料に基づき、本委員会で協議し、評価結果をまとめた。

なお,2021 年度の委員会は2回開催し(第1回委員会:2021年9月29日,第2回委員会:2022年2月2日),いずれも委員の過半数の出席があり定足数を満たしている.

3) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は,運営要領の第5条4に基づき,委員長が本学看護学部長に報告した. また,本学看護学部教授会にて委員長は報告を行い,本学看護学部教職員と評価結果の共有がな された.

本委員会の全ての委員には報告書が送付された.

さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載し、その旨は本学看護 学部学生に周知した.

表 3. 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム 課程レベル (学部レベル) の評価項目

	:ル) のカリキュラム評価		2021年度カリキュラム計		
大項目	中項目	小項目	資料	評価	コメン
. ディプロマポリ 〜	①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ 人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①~⑤との対応が示されている	・卒業演習評価 ・GPA(累積GPA・単年GPA) ・休学率、退学率		
	②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる	DP①~③の能力を有しているか学生が自己 評価している	・卒業時到達目標の自己評価 ・資格取得:国試合格率 ・進学率・就職率 ・学勢調査		
	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、 個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる		・正課外活動ポートフォリオ		
	①地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる				
	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研 錯し続けることができる				
. 環境	①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	・学内ICT状況(キャンパスマッ		
		学内に看護実践のセルフトレーニングがで きる部屋がある	プ、各階平面図) ・常勤教員数 ・文部科学省調査「指定(認定)		
	②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある	学校概況」等報告書 ・設備(ア)グループ演習室、		
		学内に文献検索、統計処理ができるPCがあ る	イ) セルフトレーニングルーム、 ウ) PC台数、エ) 文献検索、統計		
		学内のいずれも場所でも無料でインター ネット (Wi-Fi) に接続できる	処理が可能なPC、オ) 無料インターネット(Wi-Fi) 接続、カ)図書館、キ) 自学自習室、ク) 実		
	③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されて いる	習室、ケ)キャリアサポートルー ム)		
		学生数に対して、臨地実習指導者数が確保 されている			
	④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある			
		学生が自己学習できる部屋がある			
		学内に看護実践の基礎能力を身につける実 習室がある			
		学内にキャリア形成のための情報収集がで きる部屋がある			
. 過程	①カリキュラム*は計画通り実施されている (*各科目および科目全体を指す)	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	· 修得単位数		
		教員によるカリキュラムの振り返りを行っ ている	- ・実習ポートフォリオ ・授業評価 - ・進級率、休学率、退学率		
	②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門 科目の順となっている	・保健師、助産師コース希望者数 ・授業改善報告書 ・ピアレビュー報告書		
		各科目を通してDP達成できるよう配置され ている	・授業評価・教員・学生によるカリキュラム		
	③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている	評価 ・カリキュラムマップ		
		FDを定期的に実施している	・カリキュラムツリー ・看護学実習におけるCOVID-19対 策		
		授業評価に対する改善報告書を学生に返答 している	・GPA(全体推移・単年GPA・個別GPA)		
		教員間のピアレビューを実施している	・実習連絡協議会の報告資料		
		臨地実習指導者に実習のフィードバックを 行っている			
. 成果	①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	・各科目評価 ・修得単位数 ・卒業先評価		
	②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価して いる	・卒業時到達目標の自己評価 ・ジェネリックスキルテスト		
		ジェネリックスキルテストを実施・評価している	・卒業生就職先アンケート実施・看護技術経験表評価調査・資格取得:国試合格率		
	③雇用者は卒業生の能力に満足している				
5. アドミッションポ リシー	వ	示されている	・求める人材像、大学入学までに 身に付けておくべき教科・科目等 ・入学者選抜基本方針		
	②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わる ことができる人を受け入れている	れている	・入学試験の志願者数と志願倍率・入学時調査(新入生の出身校評		
	③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている	AP①~⑥の状況について外部指標を用いて 評価している	定) ・入試制度別の成績調査 ・ジェネリックスキルテスト		
	④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている		, = 1, 2, 2, 2, 1, 1, 2, 2, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,		
	⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を 受け入れている				
	⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を 受け入れている				
6. 改善	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知って いる	学生と教職員が課題や問題点を共有する場 がある	・学科会議議事録 ・3センター活動報告 ・卒業生就職先アンケート調査		
	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に 基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場が ある	・学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会、意見箱の運用		

第2章

第2章 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価の結果および総括

1. 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価結果

根拠資料一覧は資料 $3-1\sim3-6$ に示した.各委員より集約した評価およびコメントの一覧表は資料 $4-1\sim4-6$ のとおりである.以下には大項目ごとに結果の概要を示す.

- 1) 大項目 1. ディプロマポリシー
- (1) PDCA サイクル
 - ・「GPA (累積 GPA・単年 GPA)」,「休学率,退学率」,「卒業時到達目標の自己評価」,「資格取得:国試合格率」については,委員全員がAと評価していた.
 - ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
 - ・「正課外活動ポートフォリオ」についてはCの評価があり、回答率の低さが今後の検討課題であることが指摘された。

(2) 総合評価

- ・中項目「①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる」、「③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる」、「⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる」については、委員全員がAと評価していた。
- ・中項目「④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる」については、半数以上の委員がAと評価していた。
- ・中項目「②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる」については、半数以上の委員が B と評価していた.

2) 大項目 2. 環境

- (1) PDCA サイクル
 - ・「文部科学省調査「指定(認定)学校概況」等報告書」については、委員全員がAと評価していた。
 - ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
- (2) 総合評価
 - ・中項目「①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている」については、委員全員が A と評価していた.
 - ・その他の中項目については、半数以上の委員が A と評価していた.

3) 大項目 3. 過程

- (1) PDCA サイクル
 - ・「実習ポートフォリオ」、「進級率、休学率、退学率」、「保健師、助産師コース希望者数」、「授業改善報告書」、「授業評価」、「看護学実習における COVID-19 対策」、「GPA (全体推移・単年 GPA・個別 GPA)」、「FD 実施状況」については、委員全員が A と評価していた。

- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
- ・「修得単位数」については、単位数の上限・卒業要件について記載されておらず C の評価があった。

(2) 総合評価

- ・中項目「②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の中項目については、半数以上の委員が A と評価していた.

4) 大項目 4. 成果

- (1) PDCA サイクル
 - ・「各科目評価」,「修得単位数」,「卒業先評価」,「卒業時到達目標の自己評価」,「資格取得: 国試合格率」については,委員全員がAと評価していた.
 - ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
- (2) 総合評価
 - ・すべての中項目について,委員全員がAと評価していた.
- 5) 大項目 5. アドミッションポリシー
 - (1) PDCA サイクル
 - ・「求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目、入学者選抜基本方針、入 学試験の志願者数と志願倍率」、「入試制度別の成績調査」については、委員全員が A と評 価していた.
 - ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
 - (2) 総合評価
 - ・中項目「⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている」については、半数以上の委員が A と評価していた.
 - ・その他の中項目については、委員全員が A と評価していた.
- 6) 大項目 6. 改善
 - (1) PDCA サイクル
 - ・「卒業生就職先アンケート調査」については、委員全員がAと評価していた。
 - ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた.
 - (2) 総合評価
 - ・すべての中項目について、半数以上の委員が A と評価していた.
- 2. 本学部の強みおよび課題
- 1) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の強み

外部委員,学生委員,内部委員ともにAと評価した中項目および評価は下記の通りであった.

・大項目 1. ディプロマポリシー 中項目①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重 した行動をとることができる

中項目③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる

中項目⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる

· 大項目 2. 環境

中項目①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている

・大項目 3. 過程

中項目②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている

· 大項目 4. 成果

中項目①カリキュラムの目標を達成している

中項目②社会人基礎力を身につけている

中項目③雇用者は卒業生の能力に満足している

・大項目 5. アドミッションポリシー

中項目①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている

中項目②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることができる人を受け入れ ている

中項目③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている 中項目④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている

中項目⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている

以上より、カリキュラムの運営について PDCA が回っており、常に振り返り、改善にむけて動いていると評価できる。また、COVID-19 によるカリキュラム運営への影響があったが、対応することができていたと評価できる。

2) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の課題

外部委員,学生委員,内部委員の評価で乖離のあった項目と複数の委員が B と評価した項目 および課題は下記の通りであった.

・大項目 1. DP

中項目②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し,新しい知識や技術 の創造に取り組むことができる

· 大項目 2. 環境

中項目②ICTの設備が整っている

・大項目3. 過程

中項目①カリキュラムは計画通り実施されている

・大項目 6. 改善

中項目②評価結果,前回の目標,社会状況などのデータや事実に基づいて,連続性のある 次の Plan がたてられている

以上より、多面的かつグローバルな視点に対しては、国際交流の実施やさらなる土壌づくりの 推進によって、今後の改善を期待する.また、今後授業におけるオンライン化の推進に伴い、 学内 ICT 環境を引き続き整備することで、学生の学習環境を充実させることが求められる.そ して、評価を行い教職員は目標達成のための課題や問題点を共有することができている. しかし、課題や問題点を解決するための具体策の検討が不十分であり、今後の課題である.

第3章

第3章 次年度に向けた課題

今年度は、COVID-19 の影響による実習の工夫や遠隔授業への取り組みに関する改善点を踏まえ 運営を行った. その中で、昨年から引き続き取り組むべき課題および、次年度に向けてはコロナ 禍における運営について課題が示されたため以下に記す.

1. 昨年度より引き続き取り組む課題 COVID-19 が与える影響について

COVID-19 を受けた各評価において、COVID-19 の影響を受けた段階ごとにその都度対応を 実施していることから、COVID-19 の影響を加味した評価を実施する事が望ましい。今後、教 育手法(オンデマンド化)が導入される等、教育環境の変化を迎えることも想定されるため、 その都度記録に記すことの必要性が確認された。

2. 今年度の新たな課題

1) 社会人としての資質・国際的視点について

社会人としての資質・国際的視点に関して高めることが必要であると、課題として認識はされているが、どのように改善するか具体的な対策が必要である。今年度3年目を迎えたジェネリックスキルテストの結果を活用するなどを具体的な対策として今後の検討課題としたい.

2) 年報とカリキュラム評価について

本学が作成する年報には、各センターや委員会組織がPDCAを報告している。カリキュラム評価と年報を協働する事で、より具体的な評価方法となる事から年報への記載する事を継続的に実施することが課題である。

3) 学生への発信力について

学生委員より、大学側の教育環境改善への取り組みや工夫を学生に発信する事が、学生のアンケート回収率の増加につながるのでないか、との意見があった。また大学側も「学生とともに考える」ことを意識し、学生が積極的に意見を言える場を作っていく必要がある。「学生(あなた)の意見が大学を変える。」という大学側の思いや発信力、発信方法について今後の検討課題としたい。

資料

大阪医科薬科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成31年4月1日施行)

(目 的)

第1条 この運営要領は、大阪医科薬科大学学部長規則第2条に基づき、大阪医科薬科大学 看護学部に、大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会(以下、「委員会」とい う。)を置き、その必要な事項を定める。

(設置)

第2条 大阪医科薬科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために 委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反 映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

(組 織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 看護学部教員3名
 - (2) 医学部教員1名
 - (3) 他大学看護系教員1名
 - (4) 自治体、商工会議所、企業等からの委員1名
 - (5) 看護学事務課1名
 - (6) 看護学部学生(第2学年生代表1名、第4学年生代表1名)
- 2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

(審議事項)

- 第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関すること。
 - (2) その他、カリキュラムに関すること。
 - (3) その他、学部長の諮問する事項

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長を置く。
- 2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告するものとする。

(任期)

第6条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は1年 とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

- 第7条 委員会は、原則として年に2回以上開催する。
- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。
- 3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

第8条 この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

附則

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

資料 2. 2021 年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿

任期期間: 2021年4月1日~2022年3月31日

役 職	所属	職位	氏名		第3条 組織の各号
委員長	看護学	教授	吉田 久	美子	第1号:看護学部教員
	公衆衛生看護学領域				
委員	看護学	准教授	瓜﨑 貴	雄	第1号:看護学部教員
	精神看護学領域				
委員	看護学	講師	近澤 幸		第1号:看護学部教員
	母性看護学・助産学領域				
委員	医学教育センター	専門教授	瀧谷 公	隆	第2号:医学部教員
委員	大阪府立大学	教授	細田 泰	子	第3号:他大学看護系教員
	大学院看護学研究科				
委員	高槻市こども未来部	主査	澤田恵	津子	第4号:自治体,商工会議
	こども保健課				所,企業等からの委員
委員	学務部	課長	川端由	夏	第5号:看護学事務課
	看護学事務課				
委員	学務部	事務員	北川 祐	美	第5号:看護学事務課
	看護学事務課				
委員	看護学部	第2学年	中野 佑	香	第6号:看護学生第2学年
		学生			代表
委員	看護学部	第4学年	祝原 美	玖	第6号:看護学生第4学年
		学生			代表

[※]任期は1年 再任を妨げない

[※]学生の任期は1年 毎年4月以降に総代の見直しがある

資料3-1.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

PDCAがなされている 一部実施に向けた検討がなされている

PDCAがなされていない

・大幅な見直し、改善が必要

大項目 1.ディプロマポリシー

	計	A…十分に実施されている	B…概ね実施されている	C…大幅な見直し、改善が必				V	2.2) 卒業済習の長業評る必要がある。	
		+ -: ∀	B	C				魟	24	
								O	2. 教育センター担当科目の運営と実 随 (1) 卒業減割の発表の運営・実施 (1) 卒業減割の発表の運営・実施 及業者の鍵化で制用を要する PR設備の関係であって「特別です」 かよう関係にの存储を対しる方が、リ すれも開始に支離れかった。 (1) 公本業減習要項の作成と適額決定 個域が下は、課金で行い。数の欠属 権については製具が作取と関係決定 作業を行った。ターニングポイント たりかなられたが全学生の領域決定 に行えた。	1. 効果が、上がっている事項 ・ 例果のは、上がっている事項 ・ 例等年本がの学年の権が近3.4 前後に
							_	魟	19, 20	
	総合評価							D	2. 整育センター担当科目の運営と填 1. 5年業(選目に関すること 1. 5年業(選目に関すること 新型コール 整成地大技術に応じ 在1. 2000回載、郵域の対域が を1. 2000回載、網域の対域が を1. 2000回載、網域の対域では、 本面報本で1名の大日を通信課類の関係 計画者で1名の大日を通信課類の関係 1. 2000回動加ができない ためたの2000回動加ができない ためたやりを発展できないできない ためたをもした。 2. 2000回動加ができない ためたをもした。 2. 2000回動加ができない ためたをもした。 2. 2000回動加ができない ためたをもした。 できないません。 できないません。 (2. 5年業の関連をなることを対し、 リエントながたが日間となるに、 でするでは、 が表演が表別ので行い、本種にと が表がためる回転となることを対で 関連をなるにとを対で リエントンを対応に対して、 が表演が表別ので行い、本種にを が表示といる。 が表示を対している。 が表述が表別ので行い、本種にを が表でのにと対して が、本種にある。 が表述を表した。 1. 2000回と 1. 2000回と 2. 2000回と 2. 2000回と が表述を表示として、 2. 2000回と 2. 2000回と 3. 2000回と	1. 解析開稿金線の調度 1. 解析開稿金線の調度 10.0年度を20.2020年度前期の成績 について指案に分析をと推し、解析 作取が、ファイルボリンーに対して でPROパンートに手とが、軟軽金や軟 値の平準性であった。 軟軽金や軟 値の平準性であった。 財産の事業 値の下離になった。 下窓と連携を を手が成し、数長会に上下路と連携を を作成し、数長会に対して、 を持てした。 対し間の群
								鬨	19, 20	
	小項目	目ごとにDP①~⑤との対応が示されてい		DP①~⑤の能力を有しているか学生が自己 評価している		DKJ~⑤の肥力を有しているが本部宿職を用いて評価したいる		頁	2. 教育センター担当科目の運営	
			(a)	ライ 評	7	<u> </u>		lm/	ä	
		と持つ人々の生き方や価値観を尊重	果題を探求し、新しい知識や技術の創	健康課題に対し、	重携し協働する必要性と方法を理解	7.自己研鑽し続けることができる		根视資料	2020年度年報	
	中項目	多様な文化を	音護に関する講	&と技術を身に 音護を実践する	、多職種と連 : ができる	上心を持って		根拠資料の 公開有無	0	
20:21 - 1: 1: 1 - 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1: 1:		①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、 た行動をとることができる	②多面的かっグローバルな視点から看護に関する課 造に取り組むことができる	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の フステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる	④地域社会における健康課題を把握し、多職権と連て、多様な課題の解決に取り組むことができる	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	場施配燃料分・	

カリキュラム 評価委員 コメント				
軒価 カリ				
福				
佛				
A	2.2) 卒業資間の複業評価の集組をする必要がある。	2.GPA2~0米湯の学在~の学修指導の 強化およびGPAの分析と平準化の促進	1・2・3年生のGPA得点は平準化が低い料目の要因分析を行い、改善策を 物料する。引き続き1R電に分析を依 機工、学期とに各科目で破影の分析を 権工、学期とに各科目で破影の を作成し検討する。成績の平準に ついて検討する。成績の平準に	
HEK .	2	77. 44.4	9	
Э	2. 教育センター担当科目の運営と実 1. 年表議選の報子の主人 (1. 年表議選の報子の選生、実施 第2. 年表の選生、実施 第2. 年表の選生の選生、実施 第2. 年表の場子に取り、 1. 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日	1. 効果が上がっている事項 1. 数果が上がっている事項 1. 数解籍金絵に指すること相談に 低下する、今年度の年が保証を に下する、今年度の年が保証を にでする。 にできた。 だっている。 が少なくなり、成績の平準化にった がっないる。	これまで2年生のGPA平均値が学年金体で見たときに扱わったが、徐々に 上昇してきており、他の学年と同様 のARA均値に近づいている。2019年 度に比べて1、寄生型のBPA将位は「国際であるが、2・4年生のGPA平均値はは 値が上昇している。	
腻	8	23	6, 7	
D	2. 教育センター担当科目の運営と集 協・ (1) 体業流型の発表金の運営・集施 新型コール等成形式形式に応じ を固定oom電影に変更し実施した。事 中国の大力のでは、 にいて、このの関係 を固定oom電影に変更し実施した。事 中国を表生の場合であない。 においらの2000場が加いまであない。 においらの2000場が加いまであない。 は一般であるの2000場が加いまであない。 は一般であるの2000場が加いまであない。 は一般を出りた。 (2) 体験を出り、 (3) 体験を出り、 (3) 体験を出り、 (4) 中国を関係の手が関係が (4) 中国を関係が (4) 中国を関係が (5) 体験を対して、 (5) 体験を対して、 (5) 体験を対して、 (6) 体験を対して、 (6) 体験を対して、 (7) 本列のの単数が (4) 中国を対した。 (4) 中国を対して、 (4) 中国を対し、 (4) 中国を対	1. 整有開稿全線の選出 2019年度及620年度所期の成績 2019年度及620年度所期の成績 1. ついて118番に分析を存態し、整行 1. でのいて118番に分析を存態し、整行 1. でのいて118番に分析では、外間分を整 種間会議で3. では、2. 118億と連携を 1. できませんが、2. 118億と連携を 1. できまでのおりを各計目のが17回 を作成し、数模会では有した。 1. 下級と関係の多・内間について、利目 第にのたけで。 2. 下級り図の多・内間について、利目 第にのたけで。 2. 下級の選、機、本 2. 下級の機、は、 2. 下級を連携では、 2. 下級を 2. 下級の成績、他、 2. 下級を 2. 下級の成績、他、 2. 下級を 2. 下級を 2. 下級を 2. 下級を 2. 下級の成績、他、 2. 下級を 2. 下級を 3. 下級を 2. 下級	2020年度GPAの状況が衰で、2020年度 学年別の単年GPA分析が図で、2019年 生と2020年度のGPA分析の比較が図で 示されている。	看護学部GPA集施について説明し、 2020年度の看護学部 学年ごとのGPA 分布を公開している
腻	19, 20	6.1	6,7	**2
Ь	2. 教育センター担当科目の運営	1. 教育課程全絵の運営	2.1)学年ごとの単年GPA分布 2.2)2019年度と2020年度のGPA比較	
賦	18	18	6, 7	
根拠資料	2020年度年報	2020年度年報	2021年度 大阪医科薬科大学者護学 部 アセスメント・ポリシーに基づい 発記の年度データによるポリシーの 検証	IP(看護学部GPA実施について) (2020年度看護学部学年ごとの単年 GPA分布)
根拠資料の 公開有無	0	0	0	0
資料 (4)	場就問題業分・	· GPA(集積GPA・単年GPA)		

リキュラム評価委員 コメント										
単価 カ										
参			休学者、選学者は教授会で随 時、報告されている。教員問 でも共有されている。							
) A	留年者、退学者の要因分析データを 書籍し、入試方法に反映させる。		・学権移動について:規程に沿って 通やかに対応する。			1. アカスメントボリシーに基づいた 学修成果の把握と教育への活用		1. これまで橋梁と対係帯断については特定の来者を中心としたメケンュールを組んできたが、学生にとった観点できたが、サモにとった戦争でやすいが決略体を少りでしても関係やすしてがきるよう。 1. からしてのオンタイン溝座等の利用など、多角的に続けしていてとが、米からよび。 2. 木色格かへの雑誌したは体的な支援が完全を表えている。 2. 木色格かへの雑誌したは体的な支援が完全を表される。		1. ガイダンスは、内容を精健し時間 解析を書ること、時期もタイムリー にすることが課題である。 2. 免費品面をある。 3. 免費品面をの場構を、基計イ準の面 係化、後報への情報地位の迅速化を すが毎期との複数を、基計イ準の面 が毎期となって、心を開設をいる。 5. ダイムリームを生への情報地 4. 年 第2に日間である。 5. カイムの 5. カイム 5. カイス 5. カイム 5. カイス 5. カイム 5. カイス 5. カイス 5
PILS.	٦,٢		유신설년 E						10,	、 こめ 8年 荷緒び変作ので 果油で4
С	進級率は高水準を維持しているが 退学者は2018・2019年度と比較し 若干減少している。		・学癖移動について: 退学、体学各 2名 (2年生、4年生各名) であった (3月末)。 チューターが窓口にな U 関係諸機関とも連携を取り対応 した。			1.1) DPに基づいた卒業時者護実践 能力到達度調査を全学中の学生に 行ったして学年時の学生は 指ができ、次年度から修成果の把 温ができ、次年度からの教育改善に つなげることができる。		1.1)第110回者護師国家試験は受験 487名中86名が合格した「全国平均 90.4%)。第10回標帳師国家試験 は要數生37名が全員合格した(全国 平均9.3%)、第10回時報師国家 議験は支験生名が全員合格した (全国中約90.8%)。 2)でも各折用した情報提供、学習支 機は有効であった。 2.1、機構設機はの中で受験 する練習のため対面形式の機会を何 度か設ける。	卒業生87名中京職者82名 (94.3%)、進学者5名 (5.7%) で あった。	・ 一
M	16		29			33		64		
) D	2020年度の連級率は1・3年生が 100%、2年生が97.6%であり、休学 車と退学率はともに0.57%であっ た。	8 でいる	14.5) 学籍移動について:学籍移動 対応した。	HPに 「看護学部者護学科 在籍者 数」内に今和予年選学・除職者数・ ・ 申選率が記載されている。 (2020年度の記載なし	体学・選学した学生に関して教授会 で共有されている	1. アセスメントボリンーに基のいた 9. 修成型の評価 2. PPに基へいて卒業時看護実践能 2. 力が違収調をの実施 全学生を対象に調査を実施し、報告 書をまとめた。	# PP小に看護学部 (旧 大阪医科大 # 学) 海維節・疾動師・助回回国家 対験・合格・維修が記載されている 田小に国家試験が策支援として国家 株) 影像 投級委員会の店動が記載されている。	2) ~ 9) ・ 格式と 対策器能 関連の図書籍 入・4 エーケー D 示	田内に記職情報、就職・キャリアサポート、就職に関する各種アンケート結果、就職・進路状況、主な就職 先が記載されている。	1. 放響活動メラジューン等の情報や 心を表す。 いぞすサップ・ナートーム内外に 記憶し、ボスターは様示レー、コー いで直接を含を介し、コー ののでは、アスターは様にレー、コー 2. 今年の発展活動力の支援として統 最ガスゲンスを3回支援した。 最ガスゲンスを3回支援した。 最近の大人ののは、2. のの1年2月に本 を確認し、学能製性のでは、2. のの1年2月に本 を確認し、学能製性を含まれてして、 を確認し、学能製性を含まれていた。 4. 原暦主流的セントートは、百 業務があります。 2. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 3. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 3. のの1年2月に存 を表すした。 5. のの1年2月に存 を表すした。 5. のの1年2月に存 を表すした。 5. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 2. のの1年2月に存 を表すした。 3. のの1年2月に存 を表すした。 5. のの1年2月に存 を表する 5. のの1年2月に存 を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表を表
d.	4. 進級率、休学率、退学率		その他(学外研修会、障がい学生関連、整成規程関連、李務移動、学生 生活ガイド修訂、大阪医科大学学生 支援の方針に基づく点検評価)	^		1. アセスメントボリシーに基ムいた 学修成果の問題 A. エリシー基ムで ジャイトロトボリッー基ムで 総等右線共製品/国語展開売の対略		1. 全員合格や日指した国家試験受験 必須指導の機能 2. 2020年度回義院 2. 2020年度回家院職分類の複談及び 対策課金の生成 4. 国家試験対策活動の保護者への周 4. 国家試験対策活動の保護者への周 2. 機能の作品を 5. 機能は議不具者の必需 2. 機能の 4. 国家試験対策:議集へ 5. 機能の 5. 機能を 5. 機能を 5. 機能を 5. 機能を 5. 機能を 5. 場談を 5. 場談を 6. 国家試験が 6. 国家試験 6. 国家就够 6. 是就够 6. 是就 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就 6. 是就够 6. 是就够 6. 是就 6. 是就 6. 是就 6. 是就 6. 是就 6. 是就 6. 是 6. 是就 6. 是 6. 是 6. 是 6. 是 6. 是 6. 是 6. 是 6. 是		1. 学生に対する健職情報提供 2. 学生の意識活動が強化のためのサ 3. 熱調活動及び内定状況の把握 4. 卒業生からの情報提供の光実をは 5. 今業生に関するアンケート調査 6. IPの更新
岡	IC II		25		4/	32		46		44
7 根拠資料	大阪医科薬科大学看護学部 アセス メント・ポリシーに基づいた2020年 度データによるポリシーの検証		2020年度年報	IP (看: 器学部名 選学科の各種数値 データ (在籍者数等))	2020年度教授会議事録:公開資料な し (学内教職員のみ閲覧可能)	2020年 遂年 鞍	旧(希護師・保護師・財産師国家試験) (国家試験対策支援)	2020年度年 4	冊(就職支援)	2020年度年報
根拠資料の 公開有無	0		0	0	×	0	0	0	0	0
資料 2				・卒業時到海目様の自己評価		· 資格取得:国政合格率		· 油學學· 發顯華		

カリキュラム評価委員 コメント				
神価				
備考	2002年1月頃に、看藤学郎の回 存状的、キャンパス生活に関 すること、キャンパスものは 活に関すること、大学生活金 経に関すること、午業後の組 経に関することについての調 在に関することについての調 音解状を指載す定さる。			
A		2.3) (学勢調査) 医学游者護学協 合同の調査内容の見直し、実施 ・医学部はWeb人力であった。看護 学部も次年度Web人力で実施できる よう準備する。		2.10) 正課外活動ポートフォリオ の方実 ・引き続き、学生全員が入力できる ようはたらきかける。
Æ		30		31
C		1.3) (学勢調査) 医学商者護学部 今月の調査内容の見近し、実施 ・1-1年の回収率は30-19%と 高率で あった。	学勢調査の結果についての評価が、 報告書に掲載されている	1.11) 正課外活動ポートフォリオ ・合計228名の人力があった。 内部 は、 JF年23名(12.78)、2年生76 名(33.28)、3年年78名(34.18)、4年 生6名(20.18)であった。
压		88	47- 92	53
D	学修奨艦についての調査結果が公開 されている。	3. (学参調な) 医学部斉藤学部合同 の調査内容の見直し、実施 ・調査内容の見直し、実施した。	学勢調査の結果が、報告書に掲載さ れている	11. 正課外活動式ートフォリオの完 前期、後期に同ポートフォリオ〜の 人力をキモアナヤクスのた。今年 大力をサーアナクイルス高度が入 よるクラ 万部動などの自粛により、 まるクライ語のたびの自粛により、 幸む、外がにあった。そのため、 キャイルがにあった。そのため、 オートフォリオの内容調が開発。 あるため、次年度に行うこととし た。
瓦	L*	3 26 0	47-	272
Ą		3. (学塾調査) 医学船看護学船合同 の調査内容の見直し、実施		11. 正議外活動ポートフォリオの光 実
版		25		25
根拠資料	IP (2020年度 学勢調査)	2020年度年報	学勢調査報告書	2020年度年報
根拠資料の 公開有無	0	0	0	0
資料			・正課外活動ポートフォリオ	

注)「2020年度年限」は「大阪医科大学看護学師・大阪医科大学子院存養学研究科 年報 2020年度」を指す IP資料: IPP49CIRL ** Intross//www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/outcomes/gm.html **2 https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/outcomes/gm.html **3 https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/outcomes/gm.b.d. **4 https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/curricolum/camaination.html **5 https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/curricolum/camaination.html **6 https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/curricolum/camaination.html **f https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/curricolum/camaination.html **f https://www.ompu.cc.jp/cducation/f_unrsing/curricolum/camaination.html

更	
)のカリキュラム評価	
ラ (外部アベゲ	
看護学部 課程レ	
資料3-2.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベ	
-2. 2021年度	大項目 2. 乗境
資料3	大項目

中項目	й В	小項目	総合評価		評価	解釈	
19684	本では、	学内に小グループで活動できる部屋がある		Α…十分に整備されている	備されている	PDCAがなされている	
用する十日発生	- ノノな機関する 十自機処が振っている	学内に看護実践のセルフトレーニングがで きる部屋がある		B…概ね整備されている	きれている	一部実施に向けた検討がなされている	
		学内に学生数のPCの台数がある		C…大幅な見直し、	直し、改善が必要	PDCAがなされていない	
		字内に文原核条、湾井処益かたそるPCかある					
		学内のいずれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる					
		遠隔授業ができる環境が整っている					
		学生数に対して、常勤教員数が確保されて いる					
を運用する体制が整っている	^る(* 各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、臨地実習指導者数が確保 されている					
		学内に図書館がある					
		学生が自己学習できる部屋がある					
①教育・実習に関する設備が整っている		学内に看護実践の基礎能力を身につける実 習室がある					
		ュニ ジン 学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある					
根拠資料の公開有無	野科の 有無 有無	d.) D j) 道	Ą	編 事 年 単 本 単 本 単 本 単 本 単 本 単 本 単 本 単 本 単 本 単	カリキュラム評価委員 コメント
0	看護学部学生生活ガイド2020年度		キャンパスマップ (構内建物案内 図) で本館・図書館様などの場所が 23 明記されている。 ドニに繋姫の利用についても明記されている				
			귀≝ 8*		***************************************		
O 	dH (「看護学部生対象」オンライン投業 *9 開始に伴うノートパンコンの貸出に っいて案内している。			***************************************	
0	看護学事務課より教員向け周知資料		講堂・講義室1・講義室3に教卓PCを 新設したことが明記されている。				
	各階平面図:公開資料なし(2016年度までは公開していたが防犯上等の 理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)		- 情楽処理室の場所が明記されてい る。		***************************************	***************************************	
0	数件センター「オンライン班」数 等: 10分4 - 数頁 (報節・非常節) に対するmodic Zoomに関する機構 影明等性、2017 (高級機業及わらの 研修会)(後額・非常職務同等な 2000年11月開催・業者センター士 第 ※ 次各非過雨・戦者センター士 30 オンテンク主義						
0	2020年度前期授業評価 (オンライン 購養に関する学生の意見のとりまと め) ※格納場所: 教育センター→ 23. 授業評価→2020		学年別にオンライン授業に関する意 見について授業評価を行った。				
×	遊隔授業活用推進事業情報機器整備 実績報告書:2020年度3月に支料省 へ提出のため公開資料なし(看護学 事務課が保管している)		遠隔接業機器が整備されたことが明 記されている。				
0			教員権成及び教員数、非常勤教員や 4-5 実習補助員の採用について明記され ている。				
(認定) 学 ×	毎年5月に文部科学省へ提出:公開 資料なし(看護学事務課が保管して		実習施設における実習指導者数は、 報告6:実習施設等の概要に明記さ カインシス			***************************************	

N 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		根拠資料 頁	页 P	HEK(Q		0	HIIK	А	***	新価 カ	カリキュラム評価委員 コメント
				# P P	ド内施設の利用頻度と満足度とし 「下の項目が明記され、公開され スス							
0	2020年度学勢調企報告告	年 号 微 英		83 83 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60	() 図 数 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	学り	学内施設の利用頻度と満足度についての評価が、報告書に掲載されている。			2022年1月頃に田に掲載予定である。		
0		滑護学部学生生活ガイド2020年度		- 6 - 12 - 14 - 14 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12	ア / グルーブ流密省 ス / グルーブ流密省 ス / グルーブ流密省 メ / 変換器 総計を題が「確なた。 カ / 数字数 (
				(18) 雑り	講義室3・情報処理室にPCを完備していることが明記されている。							
を開発すーニュース 型流・				- (8) 本れれ (8) グぞい	(3) 教育環境整備 オンデマンド・リモート授業活用の ため、授業支援システムが導入され たことが明記されている							
イ)セルフ・アミーよ イ)セルフ・アーニングルーム ロン 女際条派、統計の組が可能なPC なり の書館 キ) の書館 キ) の書館 キ) は 日間 報 ク) 実習強 ク) 実習強 ク) まマリアナポートルーム	2020年度年業	=	9. 新型コロチ酸酸低に符うオンライン液素の導入と整備 ン液素の導入と整備	- (1 画物 / 22 / 22 / 22 / 22 / 22 / 22 / 22 /	1) - 2) オンライン高楽番館:教 員向け行み開催し、moodle母形法 を設理、学生の保護の構造の ()、一緒学生ではなどのよった。 () 仮製炭素: が自然を活った。 () 人の対策等・位置成業・位置成業 () イブリッド権制収益した。 200mアカウント特割収益した。	ハイブリット 22 の不具合が3 件・教員に7	く人 ブリッド放業では、事者、聚穣 の木味か必々が発出しただめ、年 年・教員にアッケートを実施した。	終金 22, 24 事か を見	教会により遠隔段業が不安定になる 事から、時間解変更により利用教会 を見画し対応した。			
	IP (大阪医科薬条 (施設紹介:看戲	田 (大阪医科薬科大学本部図書館) (施設紹介: 看護学館 (北キャンパ		*10 が複 文書	カ)図書館は、利用時間や利用方法 が掲載されており、オンラインでの 文献複写申込なども整備されている					***************************************		
	(()			#11 7.7 7.7	ア) グループ演習室は、学生グルー ブが自学自習できる場所として掲載							
×	各階平面図:公開度までは公開して 度までは公開して 理由により現在に 階に掲示めり	各階平面図:公開資料なし(2016年度までは公開していたが防犯上等の選出により現在は非公開。 構内の各階に議示あり		アイググ情	ア) グルーブ旅習者 イ) セルフトレーニング室 の) 装置者 カ) キャリアサポートルームと、 情報処理室の場所が明記されている							
0	HP 「2020年度著音 (大) かお知らせ (保 (東) かお知らせ (保 (東) を (大) を (IP 「2020年度若識学教育センターか ものお知らせ、何里ロコル酸染症が 着種学学生生活支援センター新型財 次のための取り組み(第7他)		物で登午用業接上た中科ぐ而ブ智限と室にい数後は時期と、心目に接り寄りしょ	4月は震闘学像、5月は道係接致としている。 6月は道係接致とし、面接を設って中生は分散を放とし、面接を認っている。 2000年 1700年							
注)「2020年度年期」は「大阪族科大学者識学師・大阪族科大学大学院者職学研究科 年報 2020年度」を指す IP資料: IPP4のIR 8 bttps://www.onpu.ac.jp/about/facilities/campusmap.html 89 bttps://www.onpu.ac.jp/detextlon/f_nursing/f2pjgc000000fans.html 810 bttps://www.onpu.ac.jp/detextlon/f_nursing/f2pjgc000000fans.html 811 bttps://www.onpu.ac.jp/detunal/f_nursing/f2pjgc000000fans.html	学部・大阪医科大学大 ies/campusmap.html irsing/f2pjgc0000000 ies/central_north/nc	大学院看護学研究科 年着 fana.html orth.html	# 2020年度」を指寸									

資料3-3. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 3. 連織		
目迹中	小項目	総合評価
(1) All to the American control to the American contro	GPA評価により学生の進捗状況を把握して いる	
(リカリキュフム、は計画通り実施されている(「各枠目および件目全体を指す)	教員によるカリキュラムの振り返りを行っ ている	
ないが、かいか、3 楽曲 をやび 中央 それHLIETEの 日は※	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門 科目の順となっている	
②作日の町が行むげを運成 てき の板雪の もの とよう しいる	各科目を通してDP達成できるよう配置され ている	
	学生による授業評価を行っている	
	FDを定期的に実施している	
③教授活動の質の保証を示す根拠がある	授業評価に対する改善報告書を学生に返答 している	
	教員間のピアレビューを実施している	
	臨地実習指導者に実習のフィードバックを 行っている	

一部実施に向けた検討がなされている

こ…大幅な見直し、改善が必要

4…十分に整備されている 3…概ね整備されている

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	根拠資料の 公開有無	根拠資料	巨	Ч	鬨	D	餌	2	闰	A	4 年	幹価	カリキュラム 評価委員 コメント
・各科目評価	0	2020年度年報 (看護学教育センター)	21 5.	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業改善	21 17.	1.2)数員による改善報告書の実施を行い、かつ各、 頻繁にて自己点検を行うよう注意喚起した	21, 23	 3数員による改善報告書の作成を行うことができている。 改善報告書に再度ごとの改善点ができている。 改善成告書に再度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている。 					
				9	61-70 各	各領域において各科目の実施・評価等を行った	61-70	同左	61-70	各領域において将来に向けた発展方 策・課題を挙げた			
	0	2020年度年報		LÓ	58-60 接	授業科目一覧							
・修得単位数	0	2020年度版履修のてびき			30 英	卒業要件·取得資格							
	0	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証					22 44.72	学生88名のうち87名は127単位以上履修。うち1名 は後期に休学した。					
十二十八二一十八十一十八十二十八十二十八十二十八十二十八十二十八十二十八十二十八	C	変年報(看護学教育セン	21 6.	6. 実習ポートフォリオの実施	12 ジベア値れ) 服み率の向上を目的として、①エニバによる記 Aの配し、オリエグラーション整面をmodiaに アップし、いつでも規載できるようにした。) 辞 値について教員と学生及がにアンケートを実施し た。	23	1.2)学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標 を概ね途成できている、と評価していた。	23	1. 2)次年度は基礎看護学実習 1.に おいでも実習ポートフォリオを導入 する。			
S C S C C C C C C C C C C C C C C C C C)	Î					24 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	2.3) 「春藤基本技術程験チェックリスト」の記入 専が低く、アンケートでは、実習ポートフォリオ を活用した学習状況が担照に課題があり、「負 担」との意見もあった。	24 22 24 32 32 32 32 32 32 32 32 32 32 32 32 32	2. 3)次任度は「看護基本技術経験 F = x > V J V J L 3 GR生は2回(項習の中間と全実習終了時)、4年生は1回(全美習終了時)の使用へと変更する。			
	0	大阪医科薬科大学者護学館 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	15 4.	4. 進級率、休学率、退学率	200 115 97.	2020年度の進級率は1・3年生が100%、2年生が 97.6%であり、休学率と選学率はともに0.57%で あった。	16 23	進級率は高水準を維持しているが、選挙者は 2018・2019年度と比較して若干減少している。	15	日年者、退学者の要因分析データを 計蓄積し、入試方法に反映させる。	進級率、休学者、選学者は数・ 接会で随時、報告されている。数員間でも共有されている		
道級率、休学率、退学率	0	选学率:2020年度年報			8 (1.7.	3)① 学生在籍数に退学者数(2名)が明記されている							
	×	2020年度教授会議事録:公開資料な し (学内教職員のみ閲覧可能)			- ***	休学・退学した学生に関して教授会で共有されて いる							
操作记录 7 一下思说出,思数的。	0	2020年度年報	29 24.15	2.3) 保健師科目・助産師科目への対応	20 公本公	2.3) 保藤師および助産師国家試験受験資格希望 者の選抜は学事予定等を踏まえたスケジュールを 立て実施した	20	2.3) 選抜はスケジュールに沿って実施し、保健師 32名、助産師6名を選抜した					
· 大學	0	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証							16 9	保健師40名、助産師6名程度の確保 のため、実習受け入れ施設・機関の 確保を引き続き行っていく。			
· 授業改善報告書	0	2020年度年報	21 5.	5.授業評価・改善 2) 教員の授業 改善	21 1. C	1. 2数員による授業(狭習)改善報告書を作成し、学生に公開した。	23 24	1. 2)検験改善報告書仕年度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている。			2019年度から実施され、授業 改善報告書は、前期終了時・ 後期終了時に学生に公開され ている。		

カリキュラム群価券員 コメント									
斯伯									

A	コロナ協であり、授業方法がCOVID- 19による商祭在近かの外記によって 変更になるため、ピアレビュー (検 業見学) については検討を要する。		2 2) 2020年度戊10VII-19の影響に より実際の技業形態ともむしない。 目があった。2020年度自由記述機 水が振が出えることは、今後毎年後 水が振が出えることも子組を打つる が、評価項目を再始計った必要がある。 な、評価項目を再始計して必要がある。 な、経験資密の技業評価を実施する る必要がある。				(年生と2年生の学習満足度の低い原 及を分析し、編定度を上げるための 工夫を行う。		
3	61	1. 1) 新型コロナ磁效能に関する文料省の通道と本 今の基本が利金を指し、「全年の交換機体、空間の質 保証」の観点から所導および複類の姿象に関する 方針を対策に合かせて確定し、生を発に関する 地では、大きな配出もなく、また平常年を発に関す がった。 1. 3 オンライン検索につか がった。 1. 3 オンライン検索につか がった。 1. 3 オンライン検索につか 等には極度検がもことなく事後の野田につか 等には極度検がもことにより、イス、裏明 もの姿態を映画、中の努力により、また不具も から変な授業に格を表達してことにより、イストローでは からなどの表にものがしてことにより、イストローのでは、 からな必要な検索にもことにより、イストローのである。	1. 2) 都度限しを行うことで高い回収率を維持できている。		2. 1)得られた意見は、カリキュラム改正業作成の 際の参考とした。	2. 2)4年生を対象にした顕春では、回答者の約9型 に概ね3回であると回称した。2.3年生の第代 関係代に第12を求めた結束、新年日や囲碁研察更 等代はよっと回うとの第12をからた。	(OWID-1986版年の影響で表案影響が近立ったり、対面影象の中で終にグレープレープを支援が 圏が十分につきなかったことが開係していると考 解が十分につきなかったことが開係していると考 第3.0 事に任年はい・5月に复数が発中しており、 第3.0 事の事に発ですいたマンド短接数となっ たことから事に扱っていたとなる。 職疾 第に関する結果は単位に同じて多り、職来 実習での学習に関してはコロナ整であっても単年 度と同様のが集めませたといえる。		
巡			23		32	32	00		
D	7. 2020年度はOWID-19じよる感染症並大に伴いオンテマンド投業やオンライン授業、ハイブリッド 投業の導入により授業見学の推進は行わなかった。	9、4月は授業を行むず各科目の事前課題を題し た。5月は別間のもにのカンチント度乗した 6級切し、学生に民機がストルを発した。6月 6の場合し、学生に民機がストルを発した)。6月 6の場合し、後年に民機がストルを発した)。6月 6分割によった。6月 6分割によった。6月 6分割によった。6月 6分割によった。6月 6分割になった。6月 6分割によった。6月 6分割になった。6月 6分割になった。6月 6分割によった。6月 6分 6分 6分 6分 6分 6分 6分 6分 6分 6分	5.1) 実施原稿に基づいてユニバを用いた業価を 行った。前時間半や実習時は評価することを表示 しなすいたが、教員に対して学生の配子を完め を発すした。2020年度は2000年の最終を 報が大きく変わっただめ、田田記載にイメンタ イン議院(本・変わったが、田田記載にイメンタ 「百定的」「中年別」の意思に発す、「南定的」	2020年度授業評価結果と支置評価結果を公開して いる。	2. 1)常勤教員を対象に2020年8月に現行カリキュラムの評価と課題・必要な改正について意見調査を行った。	 2) 4年生を対象に、現行カリキュラムに対する 評価と意見を開うアンケートを支配した (2020年8 月)。 2・3年生の総代副総代にカリキュラム改 正案を説明し意見を求めた (2021年3月)。 	接業に比較的満足している学生が約7期で昨年度の 約9期に上へて満度が下があっている。単生と4年 生の満足が下がっており、接案に第に「2型由 に「北美した接換の特別、をあている学生の割 らが低い。 臨床度割合体に対する議長度では、 全体で早数の学生が、満足している」と回答して おり、比較的満足している」と回答して はとんどの学生が満足している」と回答して はとんどの学生が満足している」と回答して	4年間のカリキュラムの流れが明記されている	・ディブロマボリシー毎に教育課程の内容が明記 ・名字部における教育課程の系統性、順次性、水 ・名字部における教育課程の系統性、順次性、水 地を明らがに、学生の護修計画、学修行動の手 助けとなるように、2020年度より科目ナンバリン が間度を導入した
缸	61		21	*15	1	32	00	*12	* *
Ċ.	4. ピアレビュー (板業見学)	9. 雅型コロナ高楽能に伴うオンライン段楽の導入と禁錮	5.1) 学生の複繁評価		2. 1) 現行カリキュラムの運営評 の実施 常勤教員を対象とした調	2. 2) 現行カリキュラムの運営評価 の実施 学生を対象とした調査	3. 学生調査 1) 学生カリキュラム 再階アンケート (1) 投業の報注 度		
Ж	年 19	55	22	900	32	32	有 8	п	一件 ※
根拠資料	大阪医科薬科大学者識学師 アセス メント・ポリシーに基づいた2020年 度データによるポリシーの検証	2020年度年報 (石麗学教育センター)	2020年度年報(活譲学教育センター)	IP (学生による授業評価アンケート・2020年度実習評価・2020年度装選 評価 (3年生)・2020年度授業評価)	教員:2020年度年報	学生:2020年度年報	学生:大阪医科集科大学者識学部 アセスメント・ポリシーに基づいた 2020年度データによるポリシーの約 記	肝(カリキュラム (4年間のカリキ・ ラムの流れ))	IP (大阪医科薬科大学看像学部カリ キュラムソリー 2017年度~2020年 投入学生) (有趣者(2012年度~2020年度入学 者用ガリキュラム ナンパリング コードー覧)
根拠資料の 公開有無	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	・ビアレビュー報告書	20 Access series	iii Luck X.		***************************************		・教員・学生によるカリキュラム評 ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー		

カリキュラム評価検責 コメント									
有									
**									
A		波習蓮路協議会における威廉対策を 講じた5円開催を課題に発けた。						棒米に向けた発展が策・範囲として、GRASの米強の学生への対象指導の製におよびGRAの分析と平衡化の 促進が挙げられた。	1・2・3年生のGN内域は平単化が低 い料1の数因分析を行い、必需策を 特別である。 開発である。可能をTREAの分析を使 相に、参加ことに名称目では終める を作成し体対する。 成数の平準化に ついて統計する。 成数の平準化に
))		 12) 実際中CWID-19の破除者が出なかった。3) 実別施設に原始もを不足なく特等できた。4) 学 38年への不利能が生じることなく職地実習を展開できた。 		脅実習順」の提出があり、補習及				 1. 1) 例年2年次の学年4Dや版が2。4個後に低下するが、2020年は124次674/82.7 と他等年と同水率に、維持できた。また、9年次のGP2.0 は減の学生が少なくなり、成績の学年形につながっている。 	- 1.1 まで9年生のBAPが時前が2年全体で見たとき に低かったが、 解水に上げてくるであり 他のを 年と同様のBAPが時に近かてくる。2 30年度に 比べて1、8年2のBAPが前はは国际であるが、 2・4年4のBAPが直上掛している。
HEX.		-38		学生5名から「補資実資額」 習を展明した。				23	これまで2年生の に低かったが 6,7 年と同様のGPA 比ペで1・3年生 2・4年生のGPA
D	英層計画に変更が生じた場合に、英層自停速成と 学生間の旅器内容に並が生じないように30時ずる ことを目的に、実質の考えが、代 特力は、確実上の程意は等)、収置を17人は、 整状況、原発圧への対応について実質委員会と情 報決別、連絡を図った。	1) ロクチン接種の気傷を行った。2) 毎日の体組 た。3) 実習施表に影像が由を持事するにあたって た。3) 実習施表に影像が由を持事するにあたって 20 変更を図った。3) 対象に対応するがあた。30 変数 20 変数をとのでき、30 分割に対応するがあた。30 変数 第一次第一体のが手を形じた。3) ワクナン接種 所・労働性の方針を形じた。3) ワクナン接種 所・行動記集の記録を発作した。3) グランが関係 は、行動記集の記録を発作した。3) 実習は概念 4) 実習に対応するためて、認味が類・実習中節の 大針を策たした。5. 30 5. 3	1. 英族能力育成における臨床支背の意識、2. 単 位の考えが、軟件実施上の部室中項に関する供助 (数で) を対していましているのでは、 医療関係職等の各等は、表成下、及び発生に伴う を対なについて、、実質を引入れずれなどにより、実質事間を変が生に集めるがない。 リ、実育事間を変が生にならからない。 習受け入れれ況の確認、及び難能が表別。こつ、 て明示した。	東西を総称等の施政症の能いで分解した学生に対しては、学生から田式の中の形を実力で、学力での解毒を対象があった。大学の田のの田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の	発売について、1、・6)に分けて開売した。1、第 ではでうくにある。9年に7)は経済度に、高次 の有無、2)の開業を受けないではである。04年を 1、即総業をもなって、3、実際問題中・中、後に上記 が開発をした。2、3、実際問題中・中、後に上記 期間中の中北が開盟コロナウィルス級をに対 はスタッンが製コロナライルス級をに対 はスタッンが製コロナライルの発展に対解 (は、を含わ)の情報を得り出す。1、6 (は、を含わ)の情報を得り出す。1、6 (は、を含わ)の情報を得り出す。1、6 (は、を含わ)の情報を得り出す。1、6 (は、を含わ)の情報を得り出す。6 (は、を含わ)の情報を得り出す。6 (は、を含わ)の情報を得り出す。6 (は、を含わ)の情報を得り出す。6 (は、を含わ)の情報を得り出す。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、を含わ)の情報を得ります。6 (は、をなわ)の情報を得ります。6 (は、をなわ)の情報を得ります。6 (は、をなわ)の情報を得ります。6 (は、をなわ)の情報を指します。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発ります。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を発きる。6 (は、をなわ)の情報を表する。6 (は、なり)の情報を表する。6 (は、なり)の情報を表する。6 (は、なり)の情報を表する。6 (は、なり)の情報を表する。6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)の情報をなり、6 (は、なり)のなり、6 (は、なり)のなり、6 (不安に思うことがあればチューターに相談するように、実営オリエンケーションで説明することになった。	者護学部GRA支稿について説明し、2020年度の看護学部 学年ごとのGPA分布を公開している	1. 4) 2019 - 2020年報信等の機能についてReii. があるだ照し、単年部末やイイメントがリント には、1020 - 10	3000年度でRADを扱かまで、2000年度学年別の単年 でが分析が程で、2019年度と300年度の45分析の 比較が国で示されている。
缸	20.20.70.44.截44	37	□ 右 10	W-1-08-38-08	文章のラーサンは 歩ん		# 2	÷	6, 7
ď	7. 実習に関する事項	1. 顕発症対策に関する顕動 1) 東 部部のワクボン接続。2) 収配中の 健康対戦。3) 必要反映物品管理。 4) 対部顕微		展展		議題8. 新型コロナウイルス感染症 を不安に思う学生への対応について		1、4)の50の分析と平準化。 1、5) では、建株、本業利定と成績不及者 へ分享生指等。	2.1)学年ごとの単年GPA分布。 2.2)2019年度と2020年度のGPALE験
HIK .	22	37-38	や「カ			# 0	#	19	* 5 1
根超資料	2020年度年報(看護学教育センター)	2020年度年制(英曆委員会)	2020年度指揮学業習に関する考えが 発格評論所、実置委員会-33。1-1 ロナ階連各的針等の最新版一教育セ ンターから	教授会資料(2020年9月23日開時教 授会、10月14日教授会)	英語における解析というない。 新聞のもがあたい。 (英語養語語: ※開始ままままます。	コロナ各不労に思う学生への対応 (2020年度務6回定署委員会邀事 (2021年度報6回定署委員会邀事 (2021年度報報)、報告 員会一32、コロナ「開建各計分等の 股幣販一実署委員会から	IP (奇薄学部GRA実施について) (2020年度奇護学部学年ごとの単年 GRA分布)	2020年報	2021年度 大阪医科業科大学者鑑学 第 アセスメント・ポリンーにあう いた 2020年度データによるポリシー の検証
根拠資料の 公開有無	0	0	×	×	×	×	0	0	0
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			,希德华美图CおけるCOVID-19林策					opa) opa)	

#				
カリキュラム 評価委 ! コメント				
カリキュラ				
単				
奉				
	7.7.7.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8.8	70 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80	を 本 な な を を を の の の の の の の の の の の の の の の	1策を7注の
	特表に向けた発展方策・震闘とし で、TMの時間について管制的にし、 中監督を決めた教育所向について会 大学を作ですが、Fマる体面づくり が挙げられた。	将来に向けた発展方案・課題として、国際交流に関する等等等ので、国際交流に関する音楽等のの別状を確立、意識を含む基準さの を重点課題としてプログラムを検討 することなどが挙げられた。	教員の英語指揮的の自上をPDの体 動うくりができた。 海米に向けた 発展力度・課題として、特別基準 職会における感染を譲じたでお開業 確か挙げられた。	改善すべき事項として、腐敗対策を 牌じた実置連絡協議会の運営方达の 検討が挙げられた。
A	た 発展 カグ (一般 ボンシン か た 教 本 が ト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	た発展力/ 死に関す 、 意識を としてブ とかながげ	指導能力 できた。 機関とし、 る感染対グ わた。	非項とし. 高格協議 られた。
	様来に向けた3 て、TPPの研修 中盤属と含め7 大学を作で中 が挙げられた。	将来に向けた発展方策・課題 で、国際交流に関する看鑑学 状を踏まえ、意識を含む基盤 を重点課題としてフログライナ することなどが挙げられた。	教員の実習指導体 動力へりができず 発展方策・課題 機会における 経済・ 発行を対する 発売を 発売を 発売を を を を を を を を を を を を を を を	改善すべき 事項と 講じた実習連絡協議 検討が挙げられた。
岡	22	17	88 教室站編落	38 投籍後
	後た9年 2年	全員が大 オンラ #待を示	43 17 80	で調整の 新 3議会運
	の機の を を を を を を を を を を を を を	者のほぼ しており、 ラムへのJ	作し活用?	一部領域 はなから7 英習連絡は
С	インケート (100%) (9は、回答 みを理解 流プログ・	に情報共ご	5の結果、 たは影響 たる た。 た。
	ふくれ 様子な で かた かな を ない のな の の の の の の の の の の の の の の り で の の り で り で	/ケート7 の取り組 た国際交	、各領域	5影響調2 が、実習 遅科大学 を作成し
	、4)FFORPUTL、アンケートの結果、今後の教育を表えていくためによった。上 い場合となっていくために十分上に場合となった。上 が開金との正にはいたい、東面にその接条キャリ アッガーを指定したい。大会キャリ アッガーを指定したい。大の上によった。 た。新一般自然の活動の多等になる。 第月があっ 第四番に研究の必要性を大いい配うに、 多に回答し、研修時間は適切、研究内容は投立っ と回答した。	(1) 事後アンケートでは、回答者のほぼを目が大 年の国際化への取り組みを選挙しており、オンラ インを活用した国際交流アログラムへの期待を示 していた。	7.79の成果は、各領域に情報共有し活用すること とした	2、中止による影響調査の結果、一部領域で調整の 違れがあったが、発育には影響はなかった。 新 たに大阪医科薬科大学者護学部実習連絡協議会選 管マニュアルを作成した。
E	1. 在 2 数 N も 1 後 2 と 8 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 と 2 と 2 と 2 と 2 と	15 1,8,4,7	37 7.F	36 職者
		- 2 とし で向け 参加子 する印	かず かん た と かん かん かん かん 、 今 、 か	光 至 後 に 正 後 に 正 後 に 一 の の の の の の の の の の の の の の の の の の
	業の方針。 R実践する に2回に分 所を2con 形を3月に のを3月に を 目的に を 1 ののを で 2 のののを	9 活動の- 4の国際化 1年度から 2説明に関	今後に生77名とと100を開催 27名とと100を開催 2を検討し	学に粘る。 裏パとに
q	る前期後 り法を学び FDを4月 FDを4月 FDを4月 FD V C FD FD V C FD FD V C FD V C	士様ろく 歌に、本学 城と、202 Moduleの	員り返り、 - トを作成 トを作成 サバカを基に 異共有なと	黎対策力 0寮生は第
	がおにおけ 国がその、 多目的で、 のTPH 町した7名 野産学教育 計議学教育 た教育商品	部に関する 教員を対 関する講 rnationa した。	の 施工 を 関 を を が が が が が が が が が が が が が が が が	女本学の夏実習計画
	3.1) ①表示を対する。 (1.2) ①表示を対する。 (2.3) では、このでは、対して、では、対して、では、対して、では、対して、では、対して、では、対して、では、対して、では、対して、では、対して、が対し、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	1.1 加勝文化に関する上接ろくり活動の一つとし と、有害が影響しな分表に、本学の国際化に向け と取り割さに関する場所と、2020度から参加す を1.0 には、Manuelの設別に関する内 を1.0 に実施した。	、右端学技術の襲撃を振り返り、今後に生かすためのリアレジションシートを作用するとともに、各個域から提出された事例を基に同を開催し、今後の対応、顕某四の指揮状力などを議計した。	2. 2020年度は本学の感染対象方針に基づき、開催を中止した。英習計画の寮生は領域ごとに実施した。
H	88 ※注摘したり質補 (1.6億)、、作し	1.7) II開発発に関する土壌イくり搭動の一つとし (中海安部数算を発に、本学の開発に同け 大覧・組みに関する場合、2021程から参加子 をのをできます。2021程から参加子 を10月末地に1.0ml Medieの設別に関する的	1.2 合後 H の命の	36 76 76
	3. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2.		11(%3 %1	
	(1) 全権自対策 (1) 全権自対策 (1) 全権自対策 (1) 全権自対 (1) 全権自対 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	1.7) 国際交流印研修の実施	7. 対応困難な学生に対する実習委員会内Pの実施	の企画
Ь		交流ED研	離な学生! 実施	実習連絡協議会の企画
	3. FD企画と FD企画と FBもシステ のための リオ (TR) 教員対象	1.7) 国際	7. 対応圏 会内田の	2. 実習通
斑	20	14	37	36
模机資料				
#		2020年度年糧		2020年度年報
事		20204		2020£
根拠資料の公開有無		0		0
				丧
李				今の報告登
~~		印実施状況		・実習連絡協議会の報告資料
		· 思		・実置

資料3-4. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

台灣技術務繁炎評価型在を実施・評価して いる 特殊生態 地名ファートを美術・評価して いる ジェネリックスキルテストを実施・評価して にな

一部実施に向けた検討がなされている PDCAがなされていない

C…大幅な見直し、改善が必要

PDCAがなされている

A…十分に実施されている B…概ね実施されている

計価

解积

改果
1100
4
\blacksquare
闦

③雇用者は卒業生の能力に満足している

①カリキュラムの目標を達成している ②社会人基礎力を身につけている

fi カリキュラム評価委員 コメント						***************************************			
編考 肝衛					•	***************************************	破職活動および内症状況について、教員用でも共有されている。		
A		各領域において将來に向けた発展方 策・課題を挙げた。		2. 教育センターと協働したカリキュラム検討			2. 就職活動及び龍業調査票は、コニバでの指出を継続し、集計作業の 簡便化、後輩への情報提供の迅速化 を住かる。		1. アセスメントボリシーに基づいた学修成果の把握と教育への活用
НЦ	できない。	61-70		88		11後	45		33
0	 3数員による政事報告書の存成を行うことができている。政事報告書店年度ごとの政務点が一覧で見られる方と、政部点の基務が見やすいようになっている。 	0 同左		 1. 3) 2002年度カリキュラム改正に向けたカリキュラ (第1次カリチュラム以下で終まれた開催や水浴部の第 (第1次カリチュラム以下で終まれた開催や水浴部の第 (第1次カリチュラムの第1次の第1次の第1次の第1が形成である。 第2の第1次カリンの第1次の第1次が下が下であったが そかざして、科目内容及び単位数、科目配関の検討が できた。 		学生88名のうち87名は127単位以上環修。うち1名は後 期に休学した。	1. 森磯活動及び破楽調金県は、ユニバラの指出に変更り90%以上の回収率を得、集計作業の簡優化にもてながり、後葉への育職器時の迅速化をはかることができる。	卒業生87名中錠職者82名 (94.3%)、進学者5名 (5.7%) であった。	1. 1) PPに基づいた卒業時有額、実験能力到途度調査を全学年の学生に行ったことで学年毎の学修成果の把題ができ、次年度からの教育改善につなげることができる。
HIX	5衛 21, 23	61–70		題 後者 総数 4 m 20 m 本立 数50分話式卒卒年改日年半4名 5 本 全手 ・ 後者 総数 4 m 20 m (急減がリロロロ目で・ 40 中 存続) 88		22	C行 5.2.45	に機器	5. 5.実施 3.3
D	1.2)教員による改善報告書の実施を行い、かつ各 域にて自己点検を行うよう注意喚起した。	各領域において各科目の実施・評価等を行った	授業科目一覧	期分分でまったの一部である。 の需要を関する後に、大型産 の需要を関する後に、大型産 の需要を関する後に、大型産 について変し調査を行った(2020年度) 19、確られて変しは確定を作った(2020年度) 19、確られて変しは確定を作成の参考とした。 2) や生を対象とした関係 現を関するがなどした関係 現を関するがなどした関係 の場所はおおお記録があると同様と の場所はおおおお記録があると同様と の場所はおおおお記録があると同様と の場所はおおおお記録があると同様と の場所はおおおお記であると同様と の場所はおおおお記録があると同様と の場所はおおおお記録があると同様と の場所はよりままするがを にして、がませるがあた(2013)。第4年や開議財変 以下した。 2) 2022年度カリキュラル及正に向けた力を単立を を を を を がはた、このでは、 がは、 の機能がでありままするがでは には、このでは、 の機能がでありままするがでは には、このが がなりキュラルを の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 の機能ができます。 には、このを がなったが が、の の機能を には、 (象) にの を のが には、 にが のが にが のが にが のが にが のが にが のが にが のが にが を ので にが のが にが を ので にが のが にが のが にが のが にが のが にが のが にが を ので にが のが にが を ので にが にが を のが にが を のが にが を のが を のが にが を のが を のが を のが を のが を のが を のが を が を のが に を のが に を のが に を のが に を のが に を のが に に に に に に に に に に に に に	卒業要件・取得資格		3. 泉城市級 VOAY生状の中部は資荼調を繋にて行い、2021年月17名条件大生全員の通路が決定したことを確認し、学部教授会で総告した。	旧内に旗職情報、戴藤・キャリアサポート、蘇聯に関する各種アンケート結果、蘇職・進路状況、主な旗職 先が記載されている。	1. アセスメントボリシーに基づいた学修成果の把題 2) DPに基づいた卒業時看護実践能力到速度調査の項 ²⁶ 学生を対象に調査を実施し、報告書をまとめた。
HIX	21	61–70	28–60	S	30		44	9*	32
ď	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業 改善			2. 現行カリキュラムの運営評価の 5. かいない できる とした 調査 3. か生なみ象とした 調査 3. 2022年度カッとした 副格 4. たの2年度カッとした 副格 4. たの2年度カット ラッシュラム あわり実施 4. たの3年の カッキック 本部の 大陸 正同 1. たの3年度 カッキック 本部の 大陸 正同 1. たの3年度 カッキック ルター かいました に同 1. たの3年度 カッキック ルター かん 正に同 1. たの3年度 カッキック ルター アルボー に 1. たいる アルドー に 1.			3. 就職活動及び内定状況の把握		 アセスメントボリシーに基づいた学修成果の把握 ディブローマボリシー基づく卒業時看護実践能力到達度調査の実施
HIX.	21					111-	44		32
根拠資料	ター) ター) ター)			2000年度年報	2020年度版程修のてびき	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	2020年度年報	IP(航職支援)	2020年度年報
根拠資料の 公開有無	0			0	0	0	0	0	0
林	· 各科目評価			海州 张 孙 ·			• 本業先評価		・卒業時到達目標の自己評価

資料	根拠資料の 公開有無	(根拠資料	畑(d	hm(O O	100	0	hu(V	柳		カリキュラム 評価役員 コメント
・ジェネリックスキルテスト	0	2020年度年報	28 ∷∰K) ジェネリックスキルテストの実施	28 28 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	1.1) 「対象者(時期)は2000年度生(1年次前期)お よび2008年度と(2年次次)であること。学生には推 申的・協働的・協助的第分の個別結果レポートを括 用して学中や最近に有限を促し、デューターにも而談 カルテ(アンケート追加)を精等のあるとしたこと 31ので終行議で3年度と前案の観的会をもち全数員 でそれを非行し、変育改善につなげる場としたこと が明記されている。	22	1.1)今年度から1年生を対象にジェネリックスキルテストを実施したため、学年の傾向を早期から把握できた。			% 年生の結果の詳細について は、9月の学科会議の場で、教 員団で共有した。		
	(2020年度年報	44 5.	・卒業生に関するアンケート調査		卒業生・施設アンケートは、合同実施の教育セン ・一と検討し毎年、継続実施することとした。	45 谷 社 名	今業生に関するアンケート顕本結果より、施設側、学生とも生命の準備や向上心は優れている点が結評値であった。	45 分割など	4 卒業生、施設に関するアンケート 結果から社会人としての資質、国際 的な視点に関して高めることが課題 である。			
・卒業生就購先アンケート調査	0	IIP(2020年度大阪医科大学有選学部)の今業生に関するアンケート結果 要約 7 (2020 年度大阪医科大学者 職学部卒業生へのアンケート調査結 果 要約)			第16 第 71*	登職に関する各種アンケート結果 大阪医科大学者護学部生に関するアンケート結果要約 が公開されている。							
	0	2020年度年報	ශ් ස් <u>හු</u>	東部パートフォリオの技施 教育政政務値の光炎	1.8 6.記記鏡睛リい行関のセ別しはフをフた	6 実設ポートフォリオの実施 部人等期 ((4年以前の主義を)をとして、(0393ポートフォリオロ 第入時期 ((4年以前の主義を)を発表で取りませれ 第24年と間からからなどを)を 1 カース・スペスルの限しを行う。(0349ポート)・フィンカイエン・スペスルの限しを行う。(0349ポート)・フィンの表面をのはにアップし、 1 カース・ガーン・フィンを画面ののはにアップし、 1 カース・ガーン・フィンを画面のはにアップし、 1 カース・ガーン・フィンを画面のはにアップし、 1 カース・デース・フィンを 1 ロース・カース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・ア	2. シンダ後か・シンの編十	1. 2) 実習ポートルチリオに関すること ・ 存業(実別)が高についてはその部を ・ を	77	 3) 教育報総務局の会長 1 「有額本人政権的表すングリスト」の記入事が成へ、アプレートのようなが用した。 学習状況の下層に無固込め、 は「全額 現るのと他」に無固込め、 は「全額 現るのと他」に無固込め、 は「全額 現るのとかったの。公平成 は「全額 現るのでは「一次中のリストルートをのなりは、 とのでは「一次日の日本日本のリストルートをのなり、 東京教育下等)、中年は私日の「大田の日本日本 教育等)、中年は私日の「大田の日本日本 教育等)、中年は私日の「大田の日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本			
· 看護技術経験表評価調查	×	2020年度 看護基本技術テェックリ ストのまとめ			夲						***************************************		
	×	2000 年度 実習ポートフォリオの評			2	習入状況について習載されている。	・を証者とてン睦る・験・のの方すころ	・ 単原の機関であるで表面が、フェリカの記入等 を取るなどが、一条を促出。コースリカンの記載が 一部である。 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、 一が、		次年度の活用を変更する。			
	C	HP(看護節,保健節,助産師因家試 略)			* F==	田内に者護学部(旧 大阪医科大学) 有護師・保健 師・助産師国家試験 合格率推移が記載されている。							
)	(国家試験対策支援)			52	IP内に国家試験対策支援として国家試験対策支援委員 会の活動が記載されている。							
• 資格取得:国試合格率	0	2020年度年報	94	1. 全有方体を目指した国家政験受験対策の保護を 2. 2020のに任ビスを 2. 2020のに任ビスを 3. 2021年に日本の大学を 3. 2021年に日本の大学を 4. 国家政権対策活動の保護者へ 6. 成立成前不良者の対策:講座へ 5. 成立成前不良者の対策:講座へ 5. 成立成前不良者の対策:講座へ 5. 成立成前不良者の対策:講座へ 5. 成立成前不良者の対策:講座へ 5. 成立の対策を向上とも方策の機能; 5. 成立の対策を向上とも方策の機能。 5. 成立の対策・関係にあるが 5. 成立の対策・関係にあるが 5. 成立の対策・関係にあるが 5. 成立の対策・関係にあるが 5. の対策・関係にあるが 5. の計能	179	2~9. 接款と 対策膨胀、国政対策関連の図書線人、 チェーターとの指数共有、落飾的国政対策能強会、保 機師・助産師国政対策、自己採品会、学生へのアン ケート	- 1- 4 機能 、 3 れ 2 個	1. 1)第110回看護師国家試験は受験生が名中86名が 合格した《全国平均の4分》。第10回環株間国家試験は受験セが名を負合格した。全国四地時間電家計 第10回時期間電影響が整度整生名が全員合格した (全国平均9. 8%)。 2. 1)体験試験は受験生化を発支援は有効であっ 2. 1)体験試験は緊張協の中で受験する体習のため対 面形式の機会を何度か設ける。	- 14ジャント 24米 3女 24 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2	1. これまで概訳と対策議覧についくは特定の象者や中心としたスケーショールを組んできたが、単語に とって機能しやサイガが必能を全しても構作をしても解や立しても解やすとができるように、Weblerのカンタイン解解やの用 水をしまるのは、Americal にいくことが、水と、多角的に検討していくことが、 水をしまれる。には他はしていくことが 水をしまれる。には他はしていくことが 水をしまれる。			
2十段图图书].	非代體現代	5. 这是到你需要这条不像不够到别不,你你需要你不够到别不」也一定却再开000000	年報 2030年度	・ 発力・ 本部・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・									

注)「2020年度年期」は「大阪医科大学看護学館・大阪医科大学大学院看建学研究科 年報 2020年度」を指す ||P資料 | BPF40 URL #6 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/narsing/support.html #16 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/narsing/support.html #17 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/narsing/suspon0000048189-att/?pjige0000001pds.pdf #17 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/narsing/campunals/support.html #5 https://www.ompu.ac.jp/caducation/_oursing/campunals/support.html

資料3-5. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

--部実施に向けた検討がなされて いる

PDCAがなされている

A…十分に実施されている B…概ね実施されている

総合評価

小項目

PDCAがなされていない

C…大幅な見直し、改善が必要

MO~⑥の基盤となる基礎学力と応用力 ができれている がの~じょかかもる人学者選抜方法が示 されている はれている にの一般の表現について外部指揮を用い に評価している

/看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている 1者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることができる人を受け

)他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている

⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている 3研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている

大項目 5. アドミッションポリシー

①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている

カリキュラム評価委 コメント				
群				
備考				
A				引き続き優秀な人材を確保し いく必要がある。 推學の 精神入試を実施し、子能を 持った多葉な学生を確保す ろ。※社会人も応募可能
岡				e
O				コロナ語でオープンキャンパスが 光分に実施でキープンキャンパスが 者が減少しなかったが、赤顔 考め、また、様学の落準入談はこ 回目になるが、応弊者が設は 田田になるが、応弊者が増加し、 社会人も入学しており、多様な人
賦				60
D	・入学者徴抜基本力幹について以 海線域等では、力が特について以 連続はするため、学士力(の知識 用的対策・2、大化、社会、自然 全人、教験的スキル、同語解決 を受けては、力力、の知識 から、一般である。 から、一般である。 から、一般である。 の一般では、一般である。 の一般では、一般である。 の一般では、一般である。 の一般では、一般である。 の一般では、一般である。 の一般では、一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般である。 の一般を表する。 の一般である。 の一般を表する。 の一般を表する。 の一般なが、 から、 が、 の一般なが、 が、 の一般なが、 の一般ない。 の一般なが、 の一般な の一般なが、 の一般な の一般なが、	同上	入試ごとに志願者数、受験者数、 合格者数、入学者数、競争率、受 験者平均点、合格者最低点、繰り 上げ合格候補者最低点が明記され ている。	2020年度オープンキャンバスはコロナ後のため9月に小規模で実 施。
賦		e	*19	е
Ъ	・ 求める人材像として、以下の」 - 6.54間にされている。 - 1. 7間の確定と性活の質みに関 心のある人様をとして、以下の し、思いなりをもってかかわること。 と他々の気体もやな場を理解 し、思いなりをもってかかわること。 一 2. 2. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	平坦		
区	*	m	11-	No.
根拠資料	IP(アドミッションボリシー(入学 者受入の方針))	2020年度履修のてびき	旧(看護学術入試情報 合和3 (2021) 年度 看護学部入学試験結果について)	大阪医科薬科大学者離学部アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度 アーケによる3ポリシーの後語
根拠資料の 公開有無	0	0	0	0
資料	・来める人材像、大学人学までに身 に付けておくべき被科・科目等 ・人学試験の志顧音数と志顧倍率 ・人学試験の志顧音数と志顧倍率			

リキュラム 評価委員 コメント				
幹価 力				
備考				
A				引き続き優秀な人材を確保し ていく必要がある。 建学の 精神入談を実施し、子能を 持った多様な学生を確保す る。※社会人も応募可能
Ħ				ю
)				コロナ船でオープンキャンパスが 充分に実施できなかったが、志顧 者が減少しなかったことは評価で きる。また、毎季の新神入款はは 回目になるが、応募者が関ル、 社会人も入学しており、参様な人 村職保につながっている。
Ħ	以 を・凡大能理会削徴、ً 整合の 潜人子		14 S C	ю
Q	・ 入学者磁技基本分針について以 海線等等では、大片有限の目的各 海線等では、大片有限の目的各 用的	用上	入試ごとに志願者数、受験者数、 合格者数、入学者数、競争率、受 験者平均点、合格者最低点、繰り 上げ合格級補者最低点が明記され ている。	2020年度オープンキャンバスはコロナ緒のため9月に小規模で実施。
屈		e	*19	м
Р	・水める人材像として、以下の1 ・のが利益されている。 たりある人体をとして、以下の1 たりある人体をとってかがなるに関 と、値者の気持ちや立場を理解 と、値者の気持ちや立場を理解 と、ができる人。 を基準をするうとで用力をもってかがなる。 本のでは、一般である。 を表離や力と応用力をもっている人 人、位着をしまって、一のできる。 に、可能である。 に、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは	干国		
賦	*	60	iin.	a. Ibd
根拠資料	(アドミッションボリシー (A学 者受入の方針))	2020年度履修のてびき	IP(看護学部入試情報 合和3 (2021) 年度 看護学部入学試験結果について)	大阪医科薬科大学看識学 部アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度 アーケによる3ポリシーの後語
根拠資料の 公開有無	0	0	0	0
資料 (資料	・求める人材像、大学入学までに身 に付けておくべき教育・科目等 ・ 入学者被及基本方針 ・ 入学試験の志願者数と志願信率			

カリキュラム 評価委員 コメント			
幹価			
備考			※1年生の結果の詳細については、9月の学科会議の 場で、教員間でで共有した。
A		一般入試 (2科目) の学生の価差値が上昇し、GPAも上昇しているが、今後の動向の解析を行う。	
闰		4	
C		A学試験別にみるとGRA平均値の 差が0.27と大きい。1年次のGRA平 均値に、一般人為(2科目)と推 総併版で入学した今生が最も高 く、程学の精神入疎の学生が最も 低い。入学年度によって異なるた め、・ 各手的に評価していく必要が ある。	1.1) 今年度から1年生を対象に ジェネリックスキルテストを実施 したため、学年の傾向を早期から 把握できた。
Ħ		4	33
D		入学試験別の入学後の成績(1年 次GPA)の分布図が示されてい る。	(1.1) 「対象者 (時期)、は2020年 度性 (年本前期)、および2018年 度生(5年次末)、元かること、学 生には批明的・船舶的・船舶的・ 在学中と設括に高用を促し、 な学中と設括に高用を促し、 カート・追加)を指導の参考として こと、51の学権機の発展では来文生の こと、51の学権機の発展では来文生の 高級の説明会をもら全機員である を共有し、教育政務につなげる場 を共有し、教育政務につなげる場
闽		4	32
Р		3. 入款制度評価 1) 入款制度別成額	1.1) ジェネリックスキルテスト の実施
Ħ		4	32
根拠資料	出願書類(成績証明書)	大阪医科薬科大学者雑学部アセスメ ント・ポリシーに基づいた2020年度 データによる3ポリシーの検証	2020年度年報
根拠資料の 公開有無	×	0	0
資料	入学時調査(新入生の出身校評 !)	入済制度別の成績調査	ジェネリックスキルデスト

注)「2020年度年報」は「大阪医科大学看護学師・大阪医科大学先達達養護学研究科 年報 2020年度」を指す 田資料: HP中のUN *18 https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/admission_policy, html *19 https://www.ompu.ac.jp/admission/undergraduate/qt931k00000008051-att/qt931k000000091e6.pdf

資料3-6. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 6. 改善

総合評価			
小項目	学生と教職員が課題や問題点を共有する場 がある	共有した課題や問題点の改善策を示す場が ある	
中項目	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次の 共有し7 Planがたてられている ある	

一部実施に向けた検討がなされてい る

PDCAがなされている

A…十分に実施されている B…概ね実施されている PDCAがなされていない

C…大幅な見直し、改善が必要

カリキュラム 評価委員 コメント					
神				:	
備考					
V	2020年度も継続して行う(但し開 催力法は、covid-1990対策の製点 からzoomによるweb開催の場合も あり得る)	2021年度看護学部活動計画に反映させる	4. 卒業生、施設に関するアンケー ト格果から社会人としての資質、 国際的な視点に関して高めること が課題である。		学生の自治活動推進のため、学友 会活動への参加、第八生学外が祝 一心存在との参加、第八年学外が祝 市場の増加、学年解制的の交流会 を取けるなどの運営ができるよう に支援する。
鬨	I V	ı	45		31
O .	covid-19による緊急事態宣言のた め、第1~4回までは、メイル会議 となった。5回以降、対面で開催さ れている。	3センターとも将来に向けた発方 策・課題を明記	卒業生に関するアンケート調査結果より、施設側、学生とも生命の単重や向上心は優れている点が高評価であった。		ユニバ・メールのやり取りで47件 と、原理(馬森か b) が増出され た。内19件は霧姿の複新面等に 関するないようであり、 着育セン サーからの解答も推釣して、2月に ユニバと啓示により学生に提示した。
缸	1	ı	45		29
D	必要時、全教員で協議すべき事項を 協議事項とし、また、各センター、 各委員会などからの定期的な報告等 を報告事項として実施	3センターとも年後においてPDCAに基 づいて記載	5. 卒業生・施設アンケートは、合同 実施の教育センターと検討し毎年、 継続実施することとした。	就職に関する各種アンケート結果 大阪医科大学者護学部在に関するア ンケート結果要約 が公開されてい る。	(学生からの要望に対する対応) 意 見称の連期、懇談の実施、 知知の言葉の報告した今年度の当初 前、月1回の会報とした今年度の当初 は、1件であった。学生懇親会:本年 度は感染症・形のの調点のも集合での 類談会技能な、各学年の総代・削終 代を通じて意見を集約した。
闰	1	ı	4	*16	27
ď	毎月第3水曜日に行われる全教員が参 加する定例会議。	各センターの目的を明確にし、目標 達成のための今年度の計画と活動観 製、評価と将来に向けた発展方案と 観覧を文書で共有	+ 107	9. 卒来在に図りるノンケート開食	6.(学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇親会の実施
萬	1	14~ 34	;	44	25
根视資料	2020年度第1~11回春選学部学科会議 議事要旨:公開資料なし	2020年度年報 (ただし2020年度各センター議事 経・公開資料なし、学内教職員のみ 閲覧可能)	2020年度年報	田 (2020年度大阪医科大学看邀学部 の卒業生に関するアンケート結集 要約) (2020 年度大阪医科大学看護 学館卒業生へのアンケート調査結果 要約)	2020年度年報
根拠資料の 公開有無	×	0	(0	0
(本)	· 学科会職職事録	・3センター (希護実践研究セン ター、希護学数育センター、学生生 活支援センター) 活動報告		・卒来生乳塩光・ノケート調査	・学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会 意見箱の運用

旧資料: IPPがOURL *16 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000004869-att/f2bjgc0000001pdv.pdf *17 https://www.ompu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000004869-att/of2vmg0000000fxz6.pdf

資料4-1.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされて いる
C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)
①	A	A	A	A	A	A
2	A	В	В	В	В	A
3	A	A	A	A	A	A
4	A	В	A	A	A	A
5	A	A	A	A	A	A

・学勢調査の結果から全体で70%未満であり、2019年度より 低下しているため改善が必要

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
• 卒業演習評価	業演習評価 A A A A		A	В	・コロナ対策に関して、適切に対応・運営していると考えます。 ・Zoomでのスライドショー共有が円滑に行えず、卒業論文発表会が30分ほど押した。そのため、マニュアルや事務員が待機するなど対応を考えた方が良いのでは? ・ICT環境に適切に対応された卒業演習の領域決定と発表会の運営をされており、今後の授業評価が期待されます。		
・GPA(累積GPA・単年GPA)	A	A	A	A	A	A	・チューター以外の先生と面談できる機会が欲しい。 ・対面・オンラインでの違いや改善理由が明らかであると 評価しやすい ・科目間の評価の平準化が検討されており、学修指導にも 適切に活用されています。今後、取り組みの評価を踏ま え、学修指導や成績の平準化の促進が期待されます。
・休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	・参考までの質問です。3ポリシーの検証はHPに公開されているのでしょうか。 ・学籍移動について関係機関と連携を取り対応されており、教員間で共有されていると考えます。
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	・卒業時看護実践能力到達度調査により学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。
資格取得:国試合格率	A	A	A	А	A	A	・素晴らしい成績です。多角的に支援している成果だと思います。是非とも継続してください。 ・高い合格率を維持されており、国試対策に尽力されておられるのがわかります。

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・進学率・就職率	Λ	В	Α	Λ	Α	Α	・A項目の4について、社会人としての資質、国際的な視点 に関して高めることが課題であると記載があるが、Aとして 何を行うかがわかりづらい ・病院以外の就職サポートが不十分 ・新型コロナ感染拡大の影響がある状況で、全員が就職か 進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支 援が行われていると思います
・学勢調査	A	A	A	A	В	A	・2020年度の学勢調査は、HPには準備中となっており、調査内容を見直し、実施されていることは把握できますが、今後の公開が期待されます。
・正課外活動ポートフォリオ	Λ	Α	Α	С	В	Α	・正課外ポートフォリオの有用性について十分に理解していない学生が未だたくさんいるのではないかと感じた。・参考までの質問です。正課外活動・学生生活に関係するアンケート調査結果を評価する項目はありますでしょうか。例: 「第2部:看護学部」の冊子を評価する項目。・時間を要するにもかかわらず回答によるメリットが学生に伝わっていないため、回答率が低いと考えられる・学生への周知が実施されておりますが、新型コロナ感染拡大の状況で学生の入力の割合に影響したことがうかがえます。

大項目 2. 環境

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
2	В	A	A	В	A		B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされて いる
3	A	A	A	A	В	A	C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない
4	A	A	A	В	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階 平面図)	A	A	A	A	A	В	・各自パソコン持参の授業があり、準備できない学生グループがスマートフォンでzoomに参加しており、情報室のPCの使用を許して欲しかった。・ノートパソコンの貸出やWi-Fi環境の整備に取り組まれています。
・常勤教員数	A	A	A	A	В	A	・常勤教員定数より2名不足しています。
· 文部科学省調査「指定 (認定) 学校概況」等報告 書	A	A	A	A	A	A	・実習施設の実習指導者数が報告されている。
• 設備	A	A	A	В	A	A	・学生がアクティブラーニングに習熟しているかどうかを確認していますでしょうか。 ・看護学部のハードウェアは素晴らしいと思います。参考までの質問です。他学の状況と比較して、本学のハードウェアを振り返ることはあるのでしょうか。例えば、シミュレーション機材など。 ・新型コナ感染症に伴うオンライン授業の導入と整備:非常に苦労されていると思います。現在の状況を教えていただけますでしょうか。と思います。現在の状況を教えていただけますでしょうか。 しや質疑応答などが必要であったと考える。また、教員と学生双方に生じた機器不良に対して各教員が対応できず授業の理解度等に不平等が生じていたと予測される。(オンライン授業経験1年以上前)・学生の自学自習室利用を把握されていますでしょうか。で医学部では対応済みにもかかわらず、感染症により自習可能なスペースが確保されていない。・四年生の昼自との表別を行ったり、中し訳なきなのものでは対応済みにもかかわらず、感染症により自習では対応済みにもかかわらず、感染症により自習では対応済みにもかかわらず、感染症により申し訳なきのものと、中しまったりから、中しいない。学生の書のために利用可能な設備が概ね整っており、時日は駅なちである。・学生の書のために利用同じない、利用時間、使用時の留意事項等が詳細でいるといれていると思います。評価について、「まったく利用しない」学生の割合が50%以上は、8セルフトレーニングルームの単方を堂、「満起している」「やや満足している」と回答した割合が50%未満は②渡習室・自習室③1階学生ホールの③地下含堂のクラブ部室であり、意見、要望から見直しを要する学内施設があるように思います。

資料4-3.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 3.過程

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)		解釈
①	В	A	A	A	A	В	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
2	A	A	A	A	A	I	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされて いる
3	A	A	A	A	В	A	C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・各科目評価	A	В	A	Α	A	A	・挙がった課題に対し何を行うのかわかりにくい ・各領域による評価が将来に向けた発展方策・課題を含め て丁寧に行われております。
・修得単位数	A	A	A	A	A	С	・卒業要件と取得資格が明記されています。
実習ポートフォリオ	A	A	А	А	A	A	・実習ポートフォリオは、最終学年まで持ち越しされるのでしょうか。 ・看護学教育センターと実習委員会が連携して実習ポートフォリオを実施されています。
・進級率、休学率、退学率	Α	Α	Λ	Λ	Λ	Α	・休学・退学者については、学部を超えての問題です。できれば、大学で情報共有する機会があれば良いです。 ・教授会で学籍移動の状況が報告され、教員間で共有されていると考えます。
・保健師、助産師コース希望者数	A	A	A	A	A	A	・スケジュールに沿って、保健師、助産師コースの選抜が されています。
・授業改善報告書	A	A	A	A	A	A	・授業改善報告書を作成されており、改善点の推移が可視 化しやすいと考えます。
・ピアレビュー報告書	A	A	A	A	В	В	・対面ではない授業のピアレビューの検討を要すると思い ます。
• 授業評価	Λ	Α	Α	Λ	Α	Α	・PDCAの流れがよく理解できる ・看護学部にて講義を担当していますが、これに関しては 適切に対応されていると考えます。 ・新型コロナ感染症に伴うオンライン授業の導入と整備を 行い、調査およびその結果を報告し、改善に向けて取り組 まれています。ユニパを用いた授業評価により高い回収率 を維持できています。

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・教員・学生によるカリキュ ラム評価 ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー	Λ	Α	Λ	Λ	В	Α	・PDCAの流れがよく理解できる ・授業形態の変更・遠隔授業・臨床実習の制限などが関係しているのでしょうか。教員および学生の感想を教えていただけますでしょうか。 ・これが教員間のピアレビューと考えて良いですか。 いた2020年度データによるポリシーの検証> ・教員と学生のカリキュラム評価が実施され、改正案の作成に活用されています。また、即にディブロマポリシーと整合したカリキュラムツリーが示されています。授業の満足度の低下があるが、授業形態の変更影響もあると考えられる。授業に満足しなかった理由で「なし」が20%を超えているため、明確な理由が把握しにくいと思います。
・看護学実習におけるCOVID- 19対策	А	A	А	Α	Α	A	・コロナ禍の中、可能な範囲で実習をさせていただき貴重な経験ができて皆感謝していました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による授業形態変更について、学生への周知は迅速にされていますでしょうか。 ・実例として、このような事例はありましたでしょうか。 学生参加の評価委員会ですので、可能な範囲の回答でよいです。 ・学生受け持ち患者が濃厚接触者となった場合の学生が取るべき行動及び不必要な行動を明らかにして欲しい。実際に、同状況が発生し保健所に連絡を取った事を大学側に伝えたところ「勝手なことはするな」と注意され、不快であった。 ・厳しい状況下、実習の継続への取り組みがされています。
・GPA(全体推移・単年GPA・ 個別GPA)	Α	Α	Α	Α	Α	А	・また、情報が更新されれば、教えていただけますでしょうか。 ・GPAが分析され、指導への活用、科目間の評価の平準化が 推進されています。今後、取り組みの評価を踏まえ、学修 指導や成績の平準化の促進が期待されます。
• FD実施状況	Α	Α	Λ	Α	Λ	Λ	・FDの出席状況は把握されていますか。参加回数が少ない 教員に対しては、参加を促す介入はされていますか。所属 する委員会に関係なく、教員間の絶え間ない意識共有・コ ミュニケーションが重要と考えます。これについてはいか がでしょか。 ・対応困難な学生に対する実習委員会内FDの実施:非常に 重要な項目だと思います。これに関する教員間の情報共有 はいかがでしょうか。できればその共有方法を教えていた だけますでしょうか。 ・遠隔授業、教育の質向上に向けたFDが実施されており、 活発であると考えます。
・実習連絡協議会の報告資料	A	A	В	A	В	A	・実習連絡協議会の開催が中止となり、運営方法の検討が 期待されます。

資料4-4.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 4. 成果

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
2	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされて いる
3	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
• 各科目評価	A	A	A	A	A	A	・各領域による評価が行われており、授業改善報告書を作成されているため、改善点が可視化しやすいと考えます。
· 修得単位数	А	A	A	A	A	A	・現行のカリキュラムの運用評価がされており、卒業要件と取得資格が明記されています。また、指定規則改正に伴う新カリキュラムの検討を進められています。
・卒業先評価	A	A	A	A	A	A	・全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの 効果的な学生支援が行われていると思います。
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	・卒業時看護実践能力到達度調査により学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。
・ジェネリックスキルテスト	Α	Α	А	Α	A	В	・本テストを有効利用ができた事例があれば教えていただけますでしょうか。 ・ジェネリックスキルテストが実施されており、効果的な学生へのフィードバックをされていると考えます。
・卒業生就職先アンケート調査	Λ	В	В	А	A	A	・A項目の課題について、どういった計画の方向性があるのかがわからない ・回収率が30%台ですので、これを上昇させる必要があります。 ・毎年の卒業生アンケートにより、評価結果や課題を明確 にされている。
· 看護技術経験表評価調査	А	А	А	А	В	А	・ポートフォリオは重要だと思います。これは最終学年までもちこせますでしょうか。低学年では同様のポートフォリオを実施されていますでしょうか。 ・ポートフォリオは双方向性になっていますでしょうか。 ・看護基本技術経験チェックリストの活用が期待されます。
· 資格取得: 国試合格率	Λ	Α	Α	Α	Α	Λ	・素晴らしい成績です。是非、この成績を維持してください。 ・高い合格率を維持されており、国試対策に力を入れておられるのがわかります。

2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 5. アドミッションポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
1)	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
2	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討が なされている
3	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない
4	A	A	A	A	A	A		
5	A	A	A	A	A	A		
6	A	В	A	A	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教 科・科目等 ・入学者選抜基本方針 ・入学試験の志願者数と志願 倍率	Α	A	Α	Α	Α	Α	・求める人材について具体的に記載されているが、 で項目の設定が課題ではないか ・適切に入学試験が施行されていると考えます。 ・オープンキャンパスは入学前の重要な大学との接触する機会ですので、是非とも続けてください。 ・即や履修の手引きにアドミッションポリシーや試験結果を明示されており、入学者受入の方針に沿った人材確保に努められていると思います。
・入学時調査 (新入生の出身 校評定)	A	A	A	A	A	В	・入学時調査を実施されています。
・入試制度別の成績調査	A	A	A	A	A	A	・高校での未修科目に関する講義(補講)はされているのでしょうか。また、その習熟度は十分でしょうか。入試種目別について、留年・退学などは関係あるでしょか。卒業時での成績はどうでしょうか。・入学試験別のGPAを把握し、評価されています。
・ジェネリックスキルテスト	A	A	A	A	A	В	・もし、テスト結果と有効利用できた事例があれば、教えていただけますでしょうか。 ・ジェネリックスキルテストが実施されており、早期に学生の傾向を把握されています。

資料4-6.2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 6. 改善

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	(安貝F~J)		解釈
①	A	A	В	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
2	A	В	В	A	A	I	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされて いる
							C…大幅な見直し、改善 が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・学科会議議事録	А	В	A	A	A	A	・会議の何が計画Pなのか不明 ・12回開催されることが評価Cなのか ・Pが不明確のため、DCAが不明確 ・学科会議が定期的に開催されています。
・3センター(看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター、活動報告	A	В	Α	Α	Α	A	・詳細内容が不明 ・3センターの活動が発展的で活発なことが年報よりうかが えます。
・卒業生就職先アンケート調査	Α	Α	Λ	Λ	Α	Α	・同アンケートから多職種との連携・協働についての能力の習得不足が次に課題とあり、今後の取り組みが期待される ・医学部では卒業生の動向をフォローしています。看護学部ではどのような方策をされていますか。参考までの質問ですが、同門会との連携はありますか? ・卒業生アンケートが毎年、継続的に実施され、評価結果から課題を明確にされています。
・学生からの要望に対する対 応 学生・教員懇談会 意見 箱の運用	Α	Α	В	В	Α		・各学年において、各学年学生と懇談する機会を設けていますか。 ・要望の聴取が遅い事がある。謝恩会会場からの問い合わせ後に実施の要望を聴取していた。対応が遅くとても残念に感じた。 ・懇親会が実施できない状況でしたので、今後に向けた取組の検討が必要であると思います。

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2021 年度 報告書

発 行 日 2022年3月30日

発 行 大阪医科薬科大学看護学部

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6

著・編集 看護学部カリキュラム評価委員会

吉田久美子 瓜﨑貴雄 近澤幸

川端由夏 北川祐美